

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	インターンシップ／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナ、守るべき事など実習前に心の準備と目的を明確にさせ、実習の効果を高めるようにする。実習に参加する学生の学習効果を高めることと、学生の受入を通して企業の社会貢献活動の一環を行なうこと、また企業は変化する新入社員の資質の変化をいち早く触れるという目に見えない相互の効果を高めていくことを目標にする。</p> <p>企業で実習するという経験を通して、自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事に積極的にチャレンジできるようにサポートする。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況</li> <li>2. ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況</li> <li>3. 業種についてⅠ</li> <li>4. 職種についてⅡ</li> <li>5. 会社の仕組みⅠ</li> <li>6. 会社の仕組みⅡ</li> <li>7. ビジネスマナⅠ</li> <li>8. ビジネスマナⅡ</li> <li>9. 電話のマナ</li> <li>10. 受付のマナ</li> <li>11. 訪問のマナ</li> <li>12. 実習先企業について調べてみる</li> <li>13. 企業調査</li> <li>14. プレゼンテーションⅠ：調べた企業について発表</li> <li>15. プレゼンテーションⅡ</li> <li>16. 実習先のマッチングⅠ</li> <li>17. 実習先のマッチングⅡ</li> <li>18. ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い）</li> <li>19. ビジネス文書Ⅱ</li> <li>20. 挨拶</li> <li>21. 実習Ⅰ</li> <li>22. 実習Ⅱ</li> <li>23. 実習Ⅲ</li> <li>24. 実習Ⅳ</li> <li>25. 実習Ⅴ</li> <li>26. 実習Ⅵ</li> <li>27. お礼状の書き方</li> <li>28. 報告</li> <li>29. プレゼンテーション</li> <li>30. 総括</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	集中
評価方法 Evaluation	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	事前指導・事後指導に必ず参加すること。

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽A／音楽I						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>クラシック音楽の価値の理解 日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。それではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているのです。名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。</p> <p>到達目標 クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：クラシック音楽の歴史的展開 第2回：J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 ドイツ・バロック音楽 第3回：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 イタリア・バロック音楽 第4回：W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 ウィーン古典派音楽 第5回：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 市民社会の理想 第6回：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 芸術音楽の市民社会への広がり 第7回：V. ベッリーニの《オペラ「清教徒」》 登場人物の心理描写 第8回：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 市民の貴族社会への憧れ 第9回：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 ショパンのロマン主義 第10回：F. リストの《愛の夢 第3番》 キャラクター・ピースの流行 第11回：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 標題音楽の発展 第12回：I. ストラヴィンスキーの《バレエ「火の鳥」》 20世紀の原始主義音楽 第13回：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 ロマン主義音楽の名残り 第14回：ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ 第15回：質疑応答と復習</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験90%、平常点10%						
履修上の注意 Requirements and policy	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。						
教科書 Textbook(s)	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	必要な場合、適宜指示します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽B／音楽II						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>クラシック音楽の歴史的位置づけ 人間にとって音楽とは何かを問うとき、音楽を歴史の中に位置づけて考察することは、その一つの有効な方法です。今いわゆるクラシック音楽について考える際、その歴史における1600年頃から1900年代前半にかけての音楽が、その全体的な概念を規定していると言っても過言ではありません。そこでこの時期に作り出された名曲の数々について、音楽史そのものの観点及びヨーロッパの政治史や社会史との関連から検討し、クラシック音楽の歴史的概略の理解に努めたいと思います。</p> <p>到達目標 バロック音楽・古典派音楽・ロマン派音楽と続く各期の名曲に触れることから始め、それらの作品を歴史的に位置づけることができるようになります。また同時に、そういったクラシック音楽の有する本質的な価値についても理解できるようになることを目指します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：クラシック音楽の歴史的概観 第2回：J. S. バッハの《マタイ受難曲》 聖書に基づいた音楽 第3回：W. A. モーツァルトの《レクイエム》 死者のためのミサ曲 第4回：F. ショパンの《ピアノ・ソナタ 第2番》 民族的音楽の国際化 第5回：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 標題交響曲 第6回：R. ワグナーの《楽劇「トリスタンとイゾルデ」》 オペラから楽劇へ 第7回：P. I. チャイコフスキーの《交響曲 第5番》 循環形式の交響曲 第8回：J. ブラームスの《交響曲 第1番》 絶対音楽と古典派音楽への偏重 第9回：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第9番「合唱付き」》 ベートーヴェンの理想 第10回：J. S. バッハの《教会カンタータ 第147番》 市民が聴く初めての芸術音楽 第11回：G. F. ヘンデルの《メサイア》 市民芸術としてのオラトリオ 第12回：S. プロコフィエフの《古典交響曲》 新古典主義の音楽 第13回：G. プッチーニの《オペラ「トゥーランドット」》 第14回：ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ 第15回：質疑応答と復習</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験90%、平常点10%
履修上の注意 Requirements and policy	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。
教科書 Textbook(s)	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	必要な場合、適宜指示します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「パイプオルガンを弾いてみよう！」（入門編）</p> <p>チャペルにある大オルガンをを用いてのパイプオルガン演奏実習入門。パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とする。同時に楽曲に対する知的理解と音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げひとつの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養う。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション 松蔭のオルガンについて、また授業の進め方や練習方法等について説明する</p> <p>第2回 パイプオルガンについての基礎的知識</p> <p>第3回 オルガン奏法の基礎 その1. タッチとリリース</p> <p>第4回 オルガン奏法の基礎 その2. アーティキュレーション</p> <p>第5回 オルガン奏法の基礎 その3. ペダル</p> <p>第6回 オルガン奏法の基礎 その4. ポリフォニー</p> <p>第7回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる その1.</p> <p>第8回 簡単なコラール前奏曲を弾いてみる その2.</p> <p>第9回 四声体の讃美歌を弾いてみる その1.</p> <p>第10回 四声体の讃美歌を弾いてみる その2.</p> <p>第11回 松蔭のオルガンの特徴ある響きを知る（ミントーン・コルネ等）</p> <p>第12回 クラス内発表会の準備 その1.</p> <p>第13回 クラス内発表会の準備 その2.</p> <p>第14回 クラス内発表会の準備 その3.</p> <p>第15回 クラス内発表会とその講評</p> <p>前期中に弾いた四声体の讃美歌1曲とコラール前奏曲1曲を選び、クラス内で公開演奏する。</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	グループレッスン形式
評価方法 Evaluation	平常点およびレポート、学期末の実技試験（クラス内発表会を兼ねる）による。まずは各人の毎回の授業への取り組み方を重視する。（平常点60%、レポート10%、学期末試験30%）
履修上の注意 Requirements and policy	受講者数15人まで。初回授業時に履修者を決定する。（2011年度は4月8日金曜日チャペルにて） 鍵盤楽器の経験があること。

履修上の注意 Requirements and policy	十分に練習の上で授業にのぞむこと。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布。楽曲に関しては授業中に紹介する。
参考書 Reference(s)	「クラヴィス」大塚直哉編
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>チャペルの大オルガンを用いてのパイプオルガン演奏実習入門編。 パイプオルガンの構造と演奏に関する基本的な知識、および初歩的な演奏技術の習得を目標とする。同時に、楽曲に対する知的理解と、音楽的センスを、練習によってバランスよく練り上げ一つの演奏に仕上げる、このプロセスを通して、集中力および客観的なものの見方を養う。バロック時代までの作品を中心に取り上げる</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 課題曲選曲 後期は、各人の進度に合わせて個別に課題（楽曲）を決め、その曲に取り組み仕上げていく行程の中で、前期に学んだ基礎的なことを自分のものとしてゆく。</p> <p>第2回 基礎練習の復習 エチュードを中心に</p> <p>第3回 讃美歌に基づくオルガン曲 その1.</p> <p>第4回 讃美歌に基づくオルガン曲 その2.</p> <p>第5回 讃美歌に基づくオルガン曲 その3.</p> <p>第6回 讃美歌に基づくオルガン曲 その4.</p> <p>第7回 バロック時代の鍵盤楽器について</p> <p>第8回 プレリユードとフーガ その1.</p> <p>第9回 プレリユードとフーガ その2.</p> <p>第10回 プレリユードとフーガ その3.</p> <p>第11回 プレリユードとフーガ その4.</p> <p>第12回 クラス内発表会の準備 その1.</p> <p>第13回 クラス内発表会の準備 その2.</p> <p>第14回 クラス内発表会の準備 その3.</p> <p>第15回 クラス内発表会と講評 後期のまとめとし、クラス内発表会（後期実技試験を兼ねる）を行う。 後期に取り組んだ楽曲の中から、自由曲1曲と讃美歌1曲を全体で8分程度でまとめ演奏する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	公開グループレッスン形式
評価方法 Evaluation	平常点およびレポート、学期末の実技試験（クラス内発表会）による。まずは各人の毎回の授業への取り組み方を重視する。（平常点60%、レポート10%、学期末試験30%）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>音楽実技1Aが履修済みであること。 必ず練習の上、授業にのぞむこと。 他の人が弾いているときも、自分が弾いているときと同じように、注意深く聴くこと。</p>

教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	「クラヴィス」 大塚直哉編
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIA						
担当教員	上野 静江						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『パイプオルガンを弾いてみよう』 音楽実技(特)A・Bで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行う。 初年度の学生は、F. クーランのオルガンミサ曲、またはクレランボーの第二旋法の組曲などフランス古典の作品を通して、タッチ、アーティキュレーション、ペダル奏法、レジストレーション等、様々な角度から、松蔭のフランス古典スタイルのオルガンに対するアプローチの方法を探ってみる。 2年目以降の学生は、J. S. バッハ、D. ブクステフーデ、J. パッヘルベルなどの自由な形式の曲の中から、各自の選んだ曲をクラス内で演奏してもらい、奏法の基礎、楽曲の解釈などについて、クラス全体で考えながら、よりよいものに仕上げていく。 讃美歌の伴奏についても取り上げる。 * 受講生の様子をみて内容を変更することもありうる。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業の進め方、注意事項ほか 第2回 オルガン奏法の基礎（1） 第3回 オルガン奏法の基礎（2） 第4回 オルガン奏法の基礎（3） 第5回 オルガン奏法の基礎（4） 第6回 オルガン奏法の基礎（5） 第7回 オルガン奏法の基礎（6） 第8回 オルガン奏法の基礎（7） 第9回 オルガン奏法の基礎（8） 第10回 オルガン奏法の基礎（9） 第11回 オルガン奏法の基礎（10） 第12回 オルガン奏法の基礎（11） 第13回 発表会に向けての準備（1） 第14回 発表会に向けての準備（2） 第15回 クラス内発表会 * 各自ソロ曲と讃美歌の伴奏を含む7分程度のプログラムを組んで演奏する。</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	一人の演奏をみなで聴き合うグループレッスン形式による。						
評価方法 Evaluation	平常点および実技試験による。（平常点70%、試験30%）						
履修上の注意 Requirements and policy	履修者制限科目につき、初回授業で受講者を決定する。受講希望者は初回授業に（2011年度は4月8日（金）3限）に必ず出席すること。 毎回の授業で、全員は弾けないかもしれないが、弾く人はクラスを代表して弾くつもりで、十分練習してから授業に臨むこと。他者のレッスンを聴くことによって多くを学ぶよう努力すること。						
教科書 Textbook(s)							

参考書 Reference(s)	クラヴィス 大塚直哉編
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『パイプオルガンを弾いてみよう』</p> <p>音楽実技特A・Bで得た基礎をもとに、さらに本格的なパイプオルガン演奏の実習を行う。</p> <p>初年度の学生は、J. S. バッハの「オルガン小曲集」を中心にドイツコラールによる作品を、2年目以降の学生は、フレスコバルディのオルガンミサ曲等、聖歌によるオルガン作品を中心に取り上げ、基になったコラールやグレゴリオ聖歌にも触れながら、各自が選んだ楽曲をよりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。</p> <p>クラス内発表会や実技試験等の機会を通じて公開演奏の経験を積み、より客観的な説得力のある演奏をめざす。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 各自取り組む曲の計画</p> <p>第2回 オルガン奏法の基礎（1）</p> <p>第3回 オルガン奏法の基礎（2）</p> <p>第4回 オルガン奏法の基礎（3）</p> <p>第5回 オルガン奏法の基礎（4）</p> <p>第6回 オルガン奏法の基礎（5）</p> <p>第7回 オルガン奏法の基礎（6）</p> <p>第8回 オルガン奏法の基礎（7）</p> <p>第9回 オルガン奏法の基礎（8）</p> <p>第10回 オルガン奏法の基礎（9）</p> <p>第11回 オルガン奏法の基礎（10）</p> <p>第12回 オルガン奏法の基礎（11）</p> <p>第13回 試験に向けての準備（1）</p> <p>第14回 試験に向けての準備（2）</p> <p>第15回 実技試験</p> <p>* 各自ソロ曲と讃美歌の伴奏を含む7分程度のプログラムを組んで演奏する。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	一人の演奏をみなで聴きあうグループレッスン形式による。
評価方法 Evaluation	平常点および実技試験による。（平常点70%、試験30%）
履修上の注意 Requirements and policy	毎回の授業で、全員は弾けないかもしれないが、弾く人はクラスを代表して弾くつもりで、十分練習してから授業に臨むこと。 他者のレッスンを聴くことによって多くを学ぶよう努力すること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>クラシック音楽の歴史的位置づけ 人間にとって音楽とは何かを問うとき、音楽を歴史の中に位置づけて考察することは、その一つの有効な方法です。今いわゆるクラシック音楽について考える際、その歴史における1600年頃から1900年代前半にかけての音楽が、その全体的な概念を規定していると言っても過言ではありません。そこでこの時期に作り出された名曲の数々について、音楽史そのものの観点及びヨーロッパの政治史や社会史との関連から検討し、クラシック音楽の歴史的概略の理解に努めたいと思います。</p> <p>到達目標 バロック音楽・古典派音楽・ロマン派音楽と続く各期の名曲に触れることから始め、それらの作品を歴史的に位置づけることができるようになります。また同時に、そういったクラシック音楽の有する本質的な価値についても理解できるようになることを目指します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：クラシック音楽の歴史的概観 第2回：J. S. バッハの《マタイ受難曲》 聖書に基づいた音楽 第3回：W. A. モーツァルトの《レクイエム》 死者のためのミサ曲 第4回：F. ショパンの《ピアノ・ソナタ 第2番》 民族的音楽の国際化 第5回：H. ベルリオーズの《幻想交響曲》 標題交響曲 第6回：R. ワーグナーの《楽劇「トリスタンとイゾルデ」》 オペラから楽劇へ 第7回：P. I. チャイコフスキーの《交響曲 第5番》 循環形式の交響曲 第8回：J. ブラームスの《交響曲 第1番》 絶対音楽と古典派音楽への偏重 第9回：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第9番「合唱付き」》 ベートーヴェンの理想 第10回：J. S. バッハの《教会カンタータ 第147番》 市民が聴く初めての芸術音楽 第11回：G. F. ヘンデルの《メサイア》 市民芸術としてのオラトリオ 第12回：S. プロコフィエフの《古典交響曲》 新古典主義の音楽 第13回：G. プッチーニの《オペラ「トゥーランドット」》 第14回：ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ 第15回：質疑応答と復習</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験90%、平常点10%						
履修上の注意 Requirements and policy	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。						
教科書 Textbook(s)	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	必要な場合、適宜指示します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	音楽入門						
担当教員	黒坂 俊昭						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>クラシック音楽の価値の理解 日本では一般にクラシック音楽は堅苦しいと敬遠されることが多く、そのためクラシック音楽が広く普及されていません。その原因の一つは、言うまでもなく、人々がその音楽に触れる機会が少ないことにあるでしょう。それではひたすらクラシック音楽に接する機会を増やせば、この状況から抜け出すことができるのでしょうか。問題はそれほど単純ではありません。クラシック音楽は、演奏する側に専門的な技量が必要とされると同様に、鑑賞する側にも聴く能力が要求されているのです。名曲を聴きながら、クラシック音楽の鑑賞について考えていきます。</p> <p>到達目標 クラシック音楽に触れることから始め、それを鑑賞することができるようになり、その音楽的価値を正しく理解できるようになります。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：クラシック音楽の歴史的展開 第2回：J. S. バッハの《ブランデンブルク協奏曲》 ドイツ・バロック音楽 第3回：A. ヴィヴァルディの《協奏曲集「四季」》 イタリア・バロック音楽 第4回：W. A. モーツァルトの《交響曲 第40番》 ウィーン古典派音楽 第5回：L. van ベートーヴェンの《交響曲 第5番「運命」》 市民社会の理想 第6回：F. シューベルトの《さすらい人幻想曲》 芸術音楽の市民社会への広がり 第7回：V. ベッリーニの《オペラ「清教徒」》 登場人物の心理描写 第8回：G. ヴェルディの《オペラ「椿姫」》 市民の貴族社会への憧れ 第9回：F. ショパンの《ポロネーズ 第6番「英雄」》 ショパンのロマン主義 第10回：F. リストの《愛の夢 第3番》 キャラクター・ピースの流行 第11回：P. I. チャイコフスキーの《序曲「1812年」》 標題音楽の発展 第12回：I. ストラヴィンスキーの《バレエ「火の鳥」》 20世紀の原始主義音楽 第13回：S. ラフマニノフの《ピアノ協奏曲 第2番》 ロマン主義音楽の名残り 第14回：ヨーロッパ芸術音楽（クラシック音楽）の特徴、まとめ 第15回：質疑応答と復習</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	試験90%、平常点10%						
履修上の注意 Requirements and policy	音楽を鑑賞するときは、必ず静粛でなければなりません。鑑賞の妨げになる受講生には退室を命じ、甚だしい場合は受講を取り消します。						
教科書 Textbook(s)	市販の書籍は使用しません。適宜プリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	必要な場合、適宜指示します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	介護等体験						
担当教員	加藤 巡一						
学期	前期 前半	曜日・時限	金曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ「介護体験を意義深いものとするために」</p> <p>中学校教諭の普通免許状を取得するためには、介護等体験を行うことが法律によって義務付けられた。介護等体験では、個人の尊厳や社会連帯の理念を深めることを目標としており、相手の人格を尊重し、対等の人として共生する生き方を身をもって体験することを願っている。この研究では、社会福祉に関する知識や理解、障害者や高齢者に対する介護、援助等のあり方、参加と連帯の精神等を実際の介護等体験に生かし、充実したものとするために各種の視点から探求する。特に、障害を持った生徒や施設利用者に対する配慮や注意、コミュニケーションのとり方、職員との接し方等、実際の取り組みに留意しながら学習を進める。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 制度の意義と内容</p> <p>第2回 介護体験で何を学ぶか</p> <p>第3回 社会福祉の意義「障害者の自立」</p> <p>第4回 特別支援学校における教育</p> <p>第5回 特別講師による講演 「介護の実践と留意点」</p> <p>第6回 高齢者の福祉と介護</p> <p>第7回 介護等体験の心得および諸注意</p> <p>学校及び施設への訪問と視察指導</p> <p>第15回 体験終了者の反省と課題発表</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義及び実習						
評価方法 Evaluation	レポート（80％）によるが、授業への取り組みの姿勢（20％）を考慮する						
履修上の注意 Requirements and policy	この科目を3年次に履修して事前指導を受けること。かつ、特別支援学校と社会福祉施設等での「介護等体験」実習に参加しないと、この科目の単位は認定しない						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学A／化学I						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「化学の基本」「有機化学」 食品や衣服や建造物のみならず、人間の手で作り出されるありとあらゆるものに化学の知識は密接に関わっている。また、日常生活の中で見られるごくありふれた光景や人間の行いの中にも、化学で説明できることが無数にある。その一方で、人々の科学的思考の脆弱さをついた疑似科学が世の中でまかり通っている光景もしばしば見受けられる。この授業で、化学の思考方法や知識を身につけ、環境問題などを含めた科学的情報の真偽が見分けられる人間になってほしい。</p> <p>到達目標：（大学受験用）高校化学と大学化学の違いを理解する。大学化学を修得していくための、基礎事項（化学式の見方、物質質量、pHなど）を修得する。全体を通して、化学が苦手な人は「化学が得意」といえるまでいなくても「化学が嫌い」とは言わないようになり、化学が得意な人は自身で情報を収集し、理解し、応用するためのサイエンスリテラシーを身につける。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：高校化学Iの問題を解いてみよう 第2回：高校化学Iの問題の解説 第3回：物質とは何か ①原子・分子・イオン 第4回：物質とは何か ②有機化合物と官能基 第5回：物質はどうやって形作られるか「原子の構造、周期律、化学結合」 第6回：化合物命名法 第7回：有機化合物命名法 第8回：構造異性体と鏡像異性体 第9回：分子量、式量の計算 第10回：モル濃度の計算 第11回：酸と塩基 ①定義、強酸と弱酸 第12回：酸と塩基 ②水素イオン濃度とpH 第13回：酸と塩基 ③中和、緩衝液 第14回：生活と化学物質「界面活性剤、色素」 第15回：総括と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常席（30～40%）、小テスト（10～20%）、最終試験（45～55%） 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の1以上の欠席で平常点はほぼなくなる。
履修上の注意 Requirements and policy	高校で化学Iを履修していない学生を意識した授業を心がけるが、化学が苦手な学生も努力して授業内容を理解・習得してほしい。 化学が得意な学生も自身の化学の知識を専門分野で活かすため頭の中を再構築してほしい。
教科書 Textbook(s)	大野 惇吉・安井 伸朗・牛田 智（共著）『化学 —「もの」をみる目—』（三共出版）ISBN 4-7827-0436-4 『サイエンスビューー 化学総合資料』（実教出版）ISBN 4-4073-1890-2
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	化学B／化学II						
担当教員	古濱 裕樹						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「身の回りの諸現象の解説」「無機化学」</p> <p>前期開講の化学Aで修得した基礎事項（化学式の見方、物質量、pHなど）が自由自在に使えるようになれば、化学の世界は大きく開ける。大学化学というものは、問題解法のテクニックを身につけて化学の試験で高得点をとることを目的とするのではなく、身につけた考え方や知識を、世の中の諸現象や動植物の営みに応用して理解するための能力を獲得することが目的である。化学Bでは無機物質（水、空気、金属など）を深く掘り下げるとともに、身の回りの諸現象（溶解、相変化、酸化還元など）のメカニズムを解説する。高分子（多糖類、樹脂、繊維など）の解説も行う。</p> <p>到達目標：水がいかに特異な物質かを知り、水がかかわる溶解や沸騰の原理を理解する。その理解をさらに発展させ、身の回りのあらゆる諸現象を化学的に論じることができるようにする。また、高分子の特徴を理解し、物質としての面白さを知る。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回：化学A（前期）の試験の解説</p> <p>第2回：SI単位と接頭辞</p> <p>第3回：水に関する化学 ①三態、臨界点、三重点</p> <p>第4回：水に関する化学 ②水素結合と電気陰性度</p> <p>第5回：水に関する化学 ③溶解と溶液</p> <p>第6回：水に関する化学 ④蒸気圧と沸騰</p> <p>第7回：熱化学方程式と熱量の計算</p> <p>第8回：化学反応はなぜ起こるのか</p> <p>第9回：触媒と化学平衡</p> <p>第10回：酸化と還元</p> <p>第11回：高分子の特徴</p> <p>第12回：天然高分子</p> <p>第13回：合成高分子</p> <p>第14回：無機高分子と金属化合物</p> <p>第15回：総括と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	平常席（30～40%）、小テスト（10～20%）、最終試験（45～55%） 遅刻、欠席は平常点より減点。3分の1以上の欠席で平常点はほぼなくなる。
履修上の注意 Requirements and policy	前期開講の化学A Iを履修していない学生でも受講できる。 ただし、化学A Iで触れた内容は理解しているものとして授業を行うため、難易度はやや難しくなる。この授業から履修する学生は、基礎事項（化学式＝分子やイオンの意味、物質量＝モル、pH＝酸塩基の本質）を理解しておいてほしい。
教科書 Textbook(s)	大野 惇吉・安井 伸朗・牛田 智（共著）『化学 —「もの」をみる目—』（三共出版）ISBN 4-7827-0436-4 『サイエンスビューー 化学総合資料』（実教出版）ISBN 4-4073-1890-2
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	科学技術と人間						
担当教員	谷塚 昇						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	地球温暖化や環境問題の事例とその原因について解説し、国際的・国内的取り組みと対策について学ぶ。科学技術が発展し、私たちの生活が便利で快適になった裏返しが、自然の破壊や地球温暖化などの問題となって、私たちの生活に還ってきている。授業では世界各地に起こっている脅威の事実を説明し、危機的状態を回避するために人々が採っている事例について、新聞やネットの最新情報から解説する。						
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 世界の気候変動</li> <li>2 科学技術の間違い</li> <li>3 無秩序な世界</li> <li>4 環境リテラシー</li> <li>5 不都合な真実</li> <li>6 エネルギー基盤</li> <li>7 省エネルギーとCO2</li> <li>8 専門化の社会</li> <li>9 新エネルギーの開発</li> <li>10 温暖化の被害</li> <li>11 環境破壊の原因</li> <li>12 太陽エネルギー</li> <li>13 リサイクル</li> <li>14 新しい生き方</li> <li>15 記入式試問</li> </ul>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	出席5割、レポート2割、記入式試問3割で評価します。記入式試問では、授業で配布した資料と各自のノートを参考にして、質問への記入形式で答えていただきます。						
履修上の注意 Requirements and policy	他の人の迷惑にならないよう授業中の私語を慎むこと。授業で学ぶうちに興味をもったテーマについて、レポートにまとめて提出してください。						
教科書 Textbook(s)	毎回の授業でプリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・池松 華奈子						
担当教員	福田 洋子・池松 華奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・大塩 佐公子						
担当教員	福田 洋子・大塩 佐公子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・澤田 和美						
担当教員	福田 洋子・澤田 和美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL (s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook (s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・澤田 和美						
担当教員	福田 洋子・澤田 和美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・布谷 由美子						
担当教員	福田 洋子・布谷 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。</p> <p>これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。</p> <p>②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート</p> <p>第2回 自分について考えよう</p> <p>第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★）</p> <p>第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★）</p> <p>第5回 社会で生きる</p> <p>第6回 社会が求める人材って？</p> <p>第7回 コミュニケーションは社会のベース</p> <p>第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内</p> <p>第9回 社会のトレンドを読む！</p> <p>第10回 社会と学問の関係は？</p> <p>第11回 「学び」の意味を考えよう！</p> <p>第12回 私のキャリアデザインマップ作成①</p> <p>第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表</p> <p>第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。</p> <p>また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点）</p> <p>③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点）</p> <p>*具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。</p> <p>①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。</p> <p>②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。</p> <p>③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。）</p> <p>④私語を慎んでください。</p> <p>⑤携帯電話の電源は切ってください。</p> <p>⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。）</p> <p>⑦飲食、化粧等はしないでください。</p> <p>⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」</p> <p>ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインI／福田 洋子・布谷 由美子						
担当教員	福田 洋子・布谷 由美子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインって何だろう？ ※チェックシート&amp;授業アンケート 第2回 自分について考えよう 第3回 あなたの強みは？ ①自分の強みを考えてみよう（★） 第4回 あなたの強みは？ ②強みから職業を考えてみよう（★） 第5回 社会で生きる 第6回 社会が求める人材って？ 第7回 コミュニケーションは社会のベース 第8回 職種・資格について考えよう ※キャリアサポートセンターへの案内 第9回 社会のトレンドを読む！ 第10回 社会と学問の関係は？ 第11回 「学び」の意味を考えよう！ 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 目標に向かってチャレンジしよう ※「レポート」、「ワークシート」提出&amp;「チェックシート」 第15回 まとめ ※（★）の回にて、特に自己発見レポートを使用</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。（15点満点） ③講座終了時にレポートを提出していただきます。（40点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						
教科書 Textbook(s)	<p>「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・池松 華奈子						
担当教員	福田 洋子・池松 華奈子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						

教科書 Textbook (s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	演習中心						
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>						

教科書 Textbook (s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザインII／福田 洋子・小幡 祐可子						
担当教員	福田 洋子・小幡 祐可子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年秋からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（情報収集力、思考力、遂行力、コミュニケーション力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、</p> <p>①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 *ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。この講座は、社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 キャリアデザインを知る ※授業アンケート、チェックシート実施 第2回 就職活動の流れを知る 第3回 社会で求められる基本スキルを知る 第4回 コミュニケーション力を身につける① ～基本スキル編～ 第5回 思考力を身につける① ～「なりたい自分」の基準づくり～ 第6回 思考力を身につける② ～自分の強み探究～ 第7回 エントリーシートの基礎（どんなことが求められるか） 第8回 エントリーシートを記入してみる（昨年受験した自己発見レポートをもとに自分の強み・長所を記入） 第9回 情報収集力を身につける① ～業界リサーチ～ 第10回 情報収集力を身につける② ～職業・職種リサーチ～ 第11回 思考力を身につける③～「なりたい自分」への戦略づくり～ 第12回 遂行力を身につける① 第13回 コミュニケーション力を身につける② ～プレゼンテーション準備編～ 第14回 遂行力を身につける② ※プレゼン・課題提出、チェックシート実施 第15回 まとめ ※内定者インタビューの時期に合わせて設定。前後期とも設定可能な場合に実施。</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心
評価方法 Evaluation	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出55%を基準とし、総合的に判断します。 ①毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②講座終了時に講師が指定するワークシートやレポートを提出していただきます。（55点満点） *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、最終講義時に提出していただく予定です。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>この講座はいずれ社会に出ていくための練習の場でもあり、また皆さんひとりひとりが自分に向き合う時間でもありますので、成果を出すために以下のことをお守りください。 ①がんばって出席してください。あなたが参加しないと始まりません。 ②毎回ワークがあります。どうぞ積極的に参加してください。また、宿題が出る場合がありますが、次の講義を進めるために必要なことですので、必ずやってきてください。 ③時間を守ってください。（やむを得ず遅刻になった場合は、理由を報告してください。また、静かに入ってください。） ④私語を慎んでください。 ⑤携帯電話の電源は切ってください。 ⑥講義中にむやみに退出しないでください。（やむを得ず退出したい場合は、理由を報告してください。） ⑦飲食、化粧等はしないでください。 ⑧その他講座の運営を乱したり、他の受講生の迷惑になるような行為は慎んでください。</p>

教科書 Textbook (s)	「MY CAREER NOTE II」 ワーク等使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書 Reference (s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザイン研究／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的</p> <p>本講義は12名の講師が下記の講義項目についてそれぞれ1コマずつ担当するオムニバス形式による授業である。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈など、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学ばせる。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、キャリアデザインの重要性について</li> <li>2. 生きるということ・働くということ—現代女性にとって</li> <li>3. 企業の現状と今後—情報通信業</li> <li>4. 企業の現状と今後—金融・保険業</li> <li>5. 企業の現状と今後—製造業</li> <li>6. 企業の現状と今後—宿泊業</li> <li>7. 企業の現状と今後—運輸業</li> <li>8. 企業の現状と今後—卸売・小売業</li> <li>9. 企業の現状と今後—サービス業</li> <li>10. 人生をいかに生きるか—仕事</li> <li>11. 人生をいかに生きるか—夢</li> <li>12. 今社会人として求められるもの</li> <li>13. 企業の現状と今後—証券業</li> <li>14. 人生をいかに生きるか—心と体の健康</li> <li>15. 総括</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	各回提出していた小レポートの4段階評価（80%）、平常点（10%）、最後の小レポート（10%）などで総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	多様な業界からゲスト・スピーカーがおいでになるので、毎回の講義に積極的に参加して、業界研究や会社研究に役立ててください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	キャリアデザイン研究／単位認定者：朴 熙成						
担当教員	単位認定者：朴 熙成						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の目的</p> <p>本講義は12名の講師が下記の講義項目についてそれぞれ1コマずつ担当するオムニバス形式による授業である。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈など、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学ばせる。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、キャリアデザインの重要性について</li> <li>2. 生きるということ・働くということ—現代女性にとって</li> <li>3. 企業の現状と今後—情報通信業</li> <li>4. 企業の現状と今後—金融・保険業</li> <li>5. 企業の現状と今後—製造業</li> <li>6. 企業の現状と今後—宿泊業</li> <li>7. 企業の現状と今後—運輸業</li> <li>8. 企業の現状と今後—卸売・小売業</li> <li>9. 企業の現状と今後—サービス業</li> <li>10. 人生をいかに生きるか—仕事</li> <li>11. 人生をいかに生きるか—夢</li> <li>12. 今社会人として求められるもの</li> <li>13. 企業の現状と今後—証券業</li> <li>14. 人生をいかに生きるか—心と体の健康</li> <li>15. 総括</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	各回提出していた小レポートの4段階評価（80%）、平常点（10%）、最後の小レポート（10%）などで総合的に評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	多様な業界からゲスト・スピーカーがおいでになるので、毎回の講義に積極的に参加して、業界研究や会社研究に役立ててください。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>1オリエンテーション 2お金を稼ぐということ 3ライフプランとは 4ライフプランニング(実習) 5【まもる】生命保険の知識 6【まもる】給料にまつわる知識 7【ためる】金融商品のしくみ 8【ためる】金融商品のしくみ 9【つかう】子供の教育って 10【つかう】車や家の購入のしかた 11【おさめる】税金の知識 12【のこす】贈与・相続に関する知識 13【かながえる】ライフプランニング(実習) 14 終了試験 15 ライフプランの発表会選抜による発表</p> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー（ファイナンシャルプランナー）による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング（実習）</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー（ファイナンシャルプランナー）による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>1オリエンテーション 2お金を稼ぐということ 3ライフプランとは 4ライフプランニング(実習) 5【まもる】生命保険の知識 6【まもる】給料にまつわる知識 7【ためる】金融商品のしくみ 8【ためる】金融商品のしくみ 9【つかう】子供の教育って 10【つかう】車や家の購入のしかた 11【おさめる】税金の知識 12【のこす】贈与・相続に関する知識 13【かながえる】ライフプランニング(実習) 14 終了試験 15 ライフプランの発表会選抜による発表</p> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー（ファイナンシャルプランナー）による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	金融リテラシー／倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
担当教員	倉島進・植田麻衣子・松永邦哉						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。</p> <p>しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。</p> <p>しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。</p> <p>本講座では、これらの知識を広く知るとともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。</p> <p>本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています。</p> <p>将来本人の希望により、今後FP技能士2級、1級の資格取得やファイナンシャルプランナー等の専門家をはじめとして、生命保険会社、証券会社、銀行といったお金に関する企業への職業選択の足がかりになればと思います。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 お金を稼ぐということ</li> <li>3 ライフプランとは</li> <li>4 ライフプランニング(実習)</li> <li>5 【まもる】生命保険の知識</li> <li>6 【まもる】給料にまつわる知識</li> <li>7 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>8 【ためる】金融商品のしくみ</li> <li>9 【つかう】子供の教育って</li> <li>10 【つかう】車や家の購入のしかた</li> <li>11 【おさめる】税金の知識</li> <li>12 【のこす】贈与・相続に関する知識</li> <li>13 【かながえる】ライフプランニング（実習）</li> <li>14 終了試験</li> <li>15 ライフプランの発表会選抜による発表</li> </ol> <p>第4回目に、ゲスト・スピーカー（ファイナンシャルプランナー）による、「ライフプラン」の解説を予定しています。</p> <p>内容は皆さんの理解度によって多少前後します。 実習は、実際に皆さんにライフプランを作成していただきます。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	<p>講義と実習、発表を取り交ぜた授業形式で実施します。学生個人個人に自らを考えてもらうとともに、必要な知識の概略を解説していきます。</p> <p>①知識の取得として、ライフプラン作成のプロフェッショナルの資格としてのファイナンシャルプランナーの基礎資格であるFP3級技能士への受験へとつなげます。</p> <p>②ライフプランの作成として、実際にライフプランを作成してもらいます。その作成にあたって基礎知識の取得を目指します。</p> <p>③今後の生き方を考える上で、職業選択も重要な要素であると考えため、講義の部分では、具体的な商品も含め、実務にも目を向けた講義を展開します。</p>						
評価方法 Evaluation	評価は、平常点と試験の成績、最終の発表に関する各点数の合計で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	第3回目、第4回目は、グループを作りディスカッション形式で授業を行います。 できる限り休まないようにしてください。						

教科書 Textbook(s)	女性の「お金力」養成塾（セルバ出版）ISBN978-4-86367-025-9
参考書 Reference(s)	オリエンテーション時に紹介いたします。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと医療						
担当教員	原 正之						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	近年関心の高まっている再生医療を中心として先端医療に関わる技術のトピックスを紹介し、その背景となる医学や生物学の技術的進歩、ならびに社会的背景を含めて解説を行う。まず高度先端医療や再生医学について概説し、その技術的な背景として、細胞分化と発生のしくみ、医療器具や人工臓器に用いられる生体材料と生体適合性、人工臓器と組織工学の現状などを紹介し、社会的に関心の高いiPS細胞やクローン技術などの話題にも触れる。また当該分野の進歩の社会的な背景として、医薬品、医療用具の認可制度、臓器移植や研究目的での細胞や組織の提供の仕組みについてなど、生命倫理と医療技術の社会的受容に関わる問題について解説する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療制度についての概論</li> <li>2. 再生医学について</li> <li>3. 細胞分化と発生のしくみ</li> <li>4. 幹細胞について</li> <li>5. 生体材料と生体適合性</li> <li>6. 人工臓器と組織工学 1</li> <li>7. 人工臓器と組織工学 2</li> <li>8. 医薬品、医療用具の認可と保険制度</li> <li>9. 細胞・組織の提供と品質管理</li> <li>10. 臓器移植について <ol style="list-style-type: none"> <li>11. クローン動物作成技術</li> <li>12. 生命倫理と社会的受容</li> <li>13. 難病について</li> <li>14. 医療に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol> </li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	資料等を配付して講義を行う。
評価方法 Evaluation	平常点（出席）50%、と課題レポートの提出50%により、評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	先端医療に関する著書や、厚生労働白書、報道記事などに注意を払うことを薦める。
教科書 Textbook(s)	教科書は特に指定しない。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと科学II						
担当教員	谷塚 昇						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	私たちの日常生活の周辺では、電気・磁気・力・エネルギー・圧力・温度・光・電波・核反応などの科学の言葉が多くある。それらの言葉一つ一つの深い意味を理解すれば、生活の面白さが増えるし、例えば、使っている家電製品に少し親しみを感じるかも知れない。上述のような日常よく触れる用語の意味について分かりやすく説明する。						
授業計画 Syllabus	1 はじめに 2 力 ボール投げ 3 地球を回る人工衛星 4 エネルギーとは何か 5 電流と電圧 6 半導体 7 磁石の力 8 電波 9 光の波・音の波 10 台風 11 温度と熱 12 原子力と核融合 13 太陽 14 再生エネルギー 15 記入式試問						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	出席8割、記入式試問2割で評価する。出席の中に平常点を含む。記入式試問は、毎回の授業で配布する資料やノートを参考にして、質問に答える形式をとる。						
履修上の注意 Requirements and policy	他の人の迷惑にならないよう私語を慎むこと。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の到達目標及びテーマ 第1に、憲法と法律の違いを理解すること、第2に、憲法上の諸問題について様々な見解がありうる様子を理解すること、第3に、憲法上の諸問題について、自分なりの立場を自分の言葉で説明する経験を得させること。</p> <p>授業の概要 最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。憲法の存在理由については、国民主権、自由と秩序、社会契約の観点から検討する。そして、憲法のしくみについて、「多数決とその限界」という観点から、統治機構と人権の諸問題を検討する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>授業計画 第1回 I イン트로ダクション 授業の進め方、試験について II 法と人間 1. 法の歴史 第2回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係 III 法律の3部門 1. 民事法 第3回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法 第4回 復習テスト1（法律の基本：I～III） 第5回 IV 憲法はなぜ必要？ 1. 国民主権 2. 政府はなぜ必要か 第6回 IV. 憲法はなぜ必要？ 3. 憲法はなぜ必要か 4. 憲法改正 第7回 V. 憲法のしくみ 1. 民主制 第8回 V. 憲法のしくみ 2. 人権保障 第9回 復習テスト2（憲法の基本：IV V） 第10回 VI. 憲法の内容（1）：戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容（2）：民主制 第12回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 1. 基本的人権 2. 平等 3. 生命 第13回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 4. 表現と宗教 5. 財産 第14回 総まとめ 第15回 まとめと最終試験（VI～VIII）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2点を評価対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師の対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。
教科書 Textbook(s)	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）
参考書 Reference(s)	なし（配布資料あり）
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしと憲法／日本国憲法						
担当教員	中川 丈久						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の到達目標及びテーマ 第1に、憲法と法律の違いを理解すること、第2に、憲法上の諸問題について様々な見解がありうる様子を理解すること、第3に、憲法上の諸問題について、自分なりの立場を自分の言葉で説明する経験を得させること。</p> <p>授業の概要 最初に法学入門的な授業をしたあと、日本国憲法の存在理由としくみを取り扱う。憲法の存在理由については、国民主権、自由と秩序、社会契約の観点から検討する。そして、憲法のしくみについて、「多数決とその限界」という観点から、統治機構と人権の諸問題を検討する。</p>
授業計画 Syllabus	<p>授業計画 第1回 I インTRODクシヨN 授業の進め方、試験について II 法と人間 1. 法の歴史 第2回 II 法と人間 2. 法と人間の複雑な関係 III 法律の3部門 1. 民事法 第3回 III 法律の3部門 2. 刑事法 3. 行政法 第4回 復習テスト1（法律の基本：I～III） 第5回 IV 憲法はなぜ必要？ 1. 国民主権 2. 政府はなぜ必要か 第6回 IV. 憲法はなぜ必要？ 3. 憲法はなぜ必要か 4. 憲法改正 第7回 V. 憲法のしくみ 1. 民主制 第8回 V. 憲法のしくみ 2. 人権保障 第9回 復習テスト2（憲法の基本：IV V） 第10回 VI. 憲法の内容（1）：戦争放棄 第11回 VII. 憲法の内容（2）：民主制 第12回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 1. 基本的人権 2. 平等 3. 生命 第13回 VIII. 憲法の内容（3）：人権保障 4. 表現と宗教 5. 財産 第14回 総まとめ 第15回 まとめと最終試験（VI～VIII）</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	復習テスト（2回）と期末試験を総合して評価する。期末試験では、与えられた文章における憲法問題の所在が指摘できるか、またそれについて学生個人の見解を示したうえで理由付けが展開できているか（どのような見解をとるかは当然ながら自由）の2点を評価対象とする。
履修上の注意 Requirements and policy	学期はじめに希望者を募り（パネル）、パネル学生と教師の対話によって授業を進めるので、学期を通じてパネル役を務め通した者には、期末試験において最大10を加点する。
教科書 Textbook(s)	中川剛「文学のなかの法感覚」（信山社）
参考書 Reference(s)	なし（配布資料あり）
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	くらしの中の統計学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	身近なくらしの中で、統計学が使われる場面が意外と多い。その使われ方を簡単な例を通して学ぶことで、データ分析の手法と、実際に使えるスキルを身につけることを目的とします。 難しい数学を使わないで、統計の基礎を学び、実験データやアンケートなどのデータ分析、情報処理などの統計的な扱いを学びます。
授業計画 Syllabus	<p>第1回: Orientation/統計学とはなに?/ハンバーガー店のポテトの売上を例題に ／第1章、ポテトの長さの均一性[1/2]—「平均」</p> <p>第2回: 第1章、ポテトの長さの均一性[2/2]—用語を知っておこう//度数分布」、 「分散」、「標準偏差」；「偏差値」のマジック</p> <p>第3回: 第2章、ポテトの本数[1/2]—「母集団」、「標本」、「抽出」、「推定値」</p> <p>第4回: 第2章、ポテトの本数[2/2]—「区間推定」、「信頼区間」、 「t分布表と自由度」；「選挙速報」の怪</p> <p>第5回: 第3章、ライバル店との売上高比較[1/2]—「仮説をたてる」、 「カイ2乗値」、「カイ2乗値の分布」</p> <p>第6回: 第3章、ライバル店との売上高比較[2/2]—「カイ2乗検定と自由度」、 「有意水準」、「仮説検定」、「決断のとき」</p> <p>第7回: 第4章、どちらの商品が人気?[1/2]—「対応のないt検定」、 「差の信頼区間」、「有意差」</p> <p>第8回: 第4章、どちらの商品が人気?[2/2]—「t検定の実施」；「秘密?の有意差」</p> <p>第9回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[1/2]—「対応のあるt検定」</p> <p>第10回: 第5章、ライバル店の人気の秘密は?[2/2]—「対応のあり/なしの比較」； 「こころの数値化?」</p> <p>第11回: 第6章、新たなライバル店の出現[1/2]—「t検定が使えない?」</p> <p>第12回: 第6章、新たなライバル店の出現[2/2]—「分散分析」、「F分布表」</p> <p>第13回: 第7章、新メニューで一発勝負[1/2]—「要員と水準」、「交互作用」、 「2要因の分散分析」</p> <p>第14回: 第7章、新メニューで一発勝負[2/2]—「2要因の分散分析表」、 「ズレの計算」、「統計学は戦略決定に不可欠」</p> <p>第15回: 定期試験 第16回: 総復習</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	<p>パワーポイントを使って授業を行ない、視覚的な理解を助けます。</p> <p>教科書を軸にしつつ、毎回講義資料を配布して理解を深めます。</p> <p>毎回、授業時間内に小テストを実施します。</p> <p>理由無く後日提出した小テストは減点します。</p>
評価方法 Evaluation	小テスト(30%)、期末試験(70%)。
履修上の注意 Requirements and policy	授業および試験では、必ず計算機（ルート√計算機能あり）を持参して下さい。
教科書 Textbook(s)	<p>向後千春、富永敦子著『統計学がわかる（ファーストブック）』（技術評論社）</p> <p>※必ず購入のこと</p>
参考書 Reference(s)	<p>特に購入の必要はないが、図書館等で参考にすることが望ましい。</p> <p>向後千春、富永敦子著『統計学がわかる【回帰分析・因子分析編】（ファーストブック）』（技術評論社）</p> <p>小島寛之著 『完全独習統計学入門』（ダイヤモンド社）</p> <p>柳谷晃著 『統計解析の基本』（日本能率協会マネジメントセンター）</p> <p>中西寛子著 『統計学の基礎』（多賀出版）</p>

参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	欠席等の連絡は事前に下記まで。 E-mail : tsukui@chemeng.osakafu-u.ac.jp

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	言語学II						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】適切な日本語の使い方について考えよう</p> <p>【概要】「話しことば」の領域を中心に、日本語の適切な使い方について知りたい、学びたいと考えている人を対象とした講義です。日本語の敬語を中心に、日本語話しことばの運用（使い方）に関する基本的な知識を身につけることを目標とします。具体的な事例をあげながら講義をすすめます。演習問題も、できるだけ多く取り入れる予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 敬語はことばのエチケット</p> <p>第2回 敬語の種類とはたらき(1)</p> <p>第3回 敬語の種類とはたらき(2)</p> <p>第4回 敬語の種類とはたらき(3)</p> <p>第5回 敬語の種類とはたらき(4)</p> <p>第6回 敬語の特別な形(1)</p> <p>第7回 敬語の特別な形(2)</p> <p>第8回 中間テストと解説</p> <p>第9回 間違いやすい敬語(1)</p> <p>第10回 間違いやすい敬語(2)</p> <p>第11回 マニュアル敬語</p> <p>第12回 バイト語</p> <p>第13回 話しことばと書きことば</p> <p>第14回 ことばの男女差</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	出席・小テスト(50%) 中間テスト(25%) 期末テスト(25%)
履修上の注意 Requirements and policy	全講義回数の4/5以上の出席をもって、学期末テストの受験資格を有するものとします。
教科書 Textbook(s)	速水博司『大学生のための敬語速修ノート』蒼丘書林 978-4-915442-20-9
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	言語学入門／言語学I						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的】日本語の多様性についての理解を深める</p> <p>【概要】日本語の話しことば、つまり「方言」と「標準語・共通語」を中心に、その多様性について理解を深めたいと考えている人を対象とした講義です。日本語の話しことばにかんする基本的なことがらの習得を目標とします。専攻分野や目指す職種の如何にかかわらず、日本語の表現力は生きていく上で不可欠なものだからです。ビデオなどの資料を取り入れながら講義をすすめます。演習問題や課題も、できるだけ多く取り入れる予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 話しことばの多様性</p> <p>第2回 方言とは何か</p> <p>第3回 方言の歴史</p> <p>第4回 方言と標準語・共通語の関係</p> <p>第5回 方言と標準語・共通語の使い分け</p> <p>第6回 現代人の考える方言と標準語・共通語</p> <p>第7回 中間テストと解説</p> <p>第8回 話しことばの地域差</p> <p>第9回 日本各地の方言①</p> <p>第10回 日本各地の方言②</p> <p>第11回 国語史からみた話しことば</p> <p>第12回 話しことばに残る古語</p> <p>第13回 方言と標準語・共通語の地理的・歴史的関係</p> <p>第14回 方言と標準語・共通語の接触にかかわる諸問題</p> <p>第15回 テストの解説とまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	出席・小テスト（50％） 中間テスト（25％） 期末テスト（25％）
履修上の注意 Requirements and policy	全講義回数の4／5以上の出席をもって、学期末テストの受験資格を有するものとします。
教科書 Textbook(s)	真田信治『方言の日本地図 ことばの旅』講談社α新書 ISBN 4-06-272168-6C0281
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>経済学とはどんな学問か考えることを導入部に、経済学的な考え方について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、その本質理解に一步近づければと考えています。</p> <p>新聞・TVなどで話題になっている経済トピックについて取り上げ、分かりやすく説明する予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、経済とは？経済学とは？①</li> <li>2. 経済学の基本的概念</li> <li>3. 簡単な経済学の歴史①：古典派経済学の現代性と限界</li> <li>4. 簡単な経済学の歴史②：古典派経済学批判～現代経済学</li> <li>5. 経済システムと組織①：市場のしくみ</li> <li>6. 経済システムと組織②：企業の役割・変化しつつある企業組織の現状</li> <li>7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について</li> <li>8. マクロ経済学の基礎知識②：経済政策の必要性</li> <li>9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策</li> <li>10. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動</li> <li>12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経行動</li> <li>13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場</li> <li>14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？</li> <li>15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験</li> </ol>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	<p>極力双方向の授業を目指します。</p> <p>内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回に確認テストを実施する予定です。そのさいに、現在の経済にかかわる主要な問題や出来事についても出題する予定です。またその解説も平明に行うつもりです。</p>
評価方法 Evaluation	定期試験80%と平常点20%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>つね日ごろからインターネット・新聞・テレビなどを通して現代の経済の問題や出来事について関心を向け、その内容理解に努めてください(確認テスト等はずねます)。</p>
教科書 Textbook (s)	
参考書 Reference (s)	<p>井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』（ナツメ社）</p> <p>嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』（ナツメ社）</p> <p>若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』（ミネルヴァ書房）</p> <p>山田鋭夫著『レギュラシオン理論』（講談社新書）</p> <p>J.スティグリッツ著『入門経済学』（東洋経済新報社）</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済A						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	経済学とはどんな学問か考えることを導入部に、経済学的な考え方について、また経済のしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に講義します。そして現代社会におけるさまざまな経済事象や経済問題を考察する際、その本質理解に一步近づければと考えています。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、経済とは？経済学とは？①</li> <li>2. 経済とは？経済学とは？②</li> <li>3. 簡単な経済学の歴史①</li> <li>4. 簡単な経済学の歴史②</li> <li>5. 経済システムと組織①</li> <li>6. 経済システムと組織②</li> <li>7. マクロ経済学の基礎知識①：マクロ経済学とは何か／国民経済勘定について／経済成長率について</li> <li>8. マクロ経済学の基礎知識②：財政政策の必要性</li> <li>9. マクロ経済学の基礎知識③：財政政策と金融政策</li> <li>10. 開放経済のマクロ経済学</li> <li>11. ミクロ経済学の基礎知識①：ミクロ経済学とは何か／消費者の行動</li> <li>12. ミクロ経済学の基礎知識②：企業の経行動</li> <li>13. ミクロ経済学の基礎知識③：価格と生産量の決定：市場</li> <li>14. ミクロ経済学の基礎知識④：市場メカニズムは効率的か？</li> <li>15. 経済のグローバル化とその功罪 およびまとめと試験</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	極力双方向の授業を目指します。 内容理解と知識の整理のために、できるだけ頻回にチェックシート(確認テスト)を実施する予定です。						
評価方法 Evaluation	定期試験80%と平常点20%						
履修上の注意 Requirements and policy	この授業を履修していないと、「現代社会と経済B」(後期)をとることはできません。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	井堀利宏著『図解雑学マクロ経済学』(ナツメ社) 嶋村・横山著『図解雑学ミクロ経済学』(ナツメ社) 若森・小池・森岡著『入門・政治経済学』(ミネルヴァ書房) 山田鋭夫著『レギュラシオン理論』(講談社新書) J.スティグリッツ著『入門経済学』(東洋経済新報社)						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と経済B						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代社会の経済のしくみや動きを理解する。 授業では近年のトピカルな経済テーマやそれに関わる諸問題（たとえば、経済的な格差拡大、労働の規制緩和と雇用形態の多様化・雇用の不安定化、少子高齢化とそれが社会経済に及ぼす影響、企業の社会的責任、経済発展と環境破壊など）をとりあげてなるべく平明に解説し、日本経済の現状と課題について学びます。また日々新聞やニュースで飛び交っている経済情報を正確に理解し、来るべき就職というハードルを乗り越えるために必要な経済的知識を習得することにも配慮したいと思っています。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 福祉と経済と公共政策(1)：福祉国家の意義と限界</li> <li>3 福祉と経済と公共政策(2)：福祉社会と福祉多元主義</li> <li>4 市場原理の「陥穽」と社会政策(1)：市場原理とその限界</li> <li>5 市場原理の「陥穽」と社会政策(2)：社会政策の対象領域/社会政策と経済政策</li> <li>6 労働分野における規制緩和(1)：非正規労働の増大の原因</li> <li>7 労働分野における規制緩和(2)：非正規雇用の諸相とその向かう先</li> <li>8 労働環境と企業の社会的責任</li> <li>9 日本の貧困(1)：相対的貧困率ワースト2の理由</li> <li>10 日本の貧困(2)：ホワイトカラーの非正規労働者化と貧困化</li> <li>11 少子化と日本経済</li> <li>12 投資立国か製造(モノヅクリ)立国か</li> <li>13 経済発展と環境問題</li> <li>14 日本経済のこれから</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	極力双方向を目指します。 内容理解の確認と知識の整理のためにほぼ毎回チェックシートを実施する予定です。
評価方法 Evaluation	試験80%と平常点20%によって評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	「現代社会と経済A」を履修している必要があります。トピカルなまた身近な経済事象についても取り上げて考えていきたいと思っています。日ごろから新聞・テレビなどの経済報道に目を向ける習慣をつけて下さい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>政治とは何かを考える。政治のしくみを学ぶ。トピカルな政治問題を理解する。</p> <p>授業では、現代の政治のしくみが歴史的にどう出来上ったのか、それはどのように機能しているのか、民主主義はどのようなメリット・デメリットをもっているのかを学びます。それをもとに現在起こっているトピカルな政治問題を読み解いたり、私たちの日常生活と政治との関わりを深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。</p> <p>また私たちの生活にかかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題についても考察・検討したいと思います。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についても時間が許す限りとりあげ検討していく予定です。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに：「政治」とは何か</li> <li>2 民主主義の原点</li> <li>3 近代民主政治の思想と原理</li> <li>4 保守「革新」という考え</li> <li>5 現代民主政治のしくみ(1)：議会制民主主義の諸類型</li> <li>6 現代民主政治のしくみ(2)：日本型議会制民主主義の特徴</li> <li>7 政治と国家(1)：国家機能の変遷</li> <li>8 政治と国家(2)：現代社会における国家の役割</li> <li>9 世論の支配とマスメディア</li> <li>10 日本の行政改革とその問題</li> <li>11 日本の司法制度改革とその問題</li> <li>12 歴史認識とナショナリズム</li> <li>13 日本とアジア：中国・韓国・北朝鮮を中心に</li> <li>14 日本と米・欧・露</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>極力双方向を目指したいと思います。</p> <p>理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。</p>
評価方法 Evaluation	試験80%と平常点20%によって評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>提出物を指示された場合は期日を厳守すること。</p> <p>新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけて下さい。問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。</p>
教科書 Textbook(s)	プリント・資料を配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治A						
担当教員	奥西 達也						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	民主政治の原理と現代政治のしくみについて学ぶ。 公務員試験をはじめ就職試験に備えた内容にも一部言及する。 時間の許す限り政治にかかわるup to dateなトピックも取り上げ説明する。						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 政治とは？</li> <li>3. 政治と国家 i : 国家の成立/国家の主権</li> <li>4. 政治と国家 ii : 国家機能の変遷</li> <li>5. 権力論 i : 政治権力/権力の2側面</li> <li>6. 権力論 ii : 権力の機能/支配の正当性</li> <li>7. エリート論</li> <li>8. リーダーシップ論</li> <li>9. 民主政治の思想と基本原理 i : 近代に至るまで</li> <li>10. 民主政治の思想と基本原理 ii : 近代～現代</li> <li>11. 政治機構① : 議会制度/官僚制</li> <li>12. 政治機構② : 議院内閣制と大統領制の特徴</li> <li>13. 選挙行動と政治過程</li> <li>14. 政治過程の主要なアクター</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	極力双方向を目指します。 理解の確認と知識の整理のために、頻りにチェックシート(確認テスト)を実施する予定です。						
評価方法 Evaluation	定期試験80%と平常点20%						
履修上の注意 Requirements and policy	つね日頃からインターネット・新聞・TVなどを通じて、政治のみならず社会にかかわる事柄に関心を向けてください。						
教科書 Textbook(s)	プリントや資料を配布します。						
参考書 Reference(s)	林雄介著『図解雑学 よくわかる政治のしくみ』(ナツメ社) 佐々木毅著『政治の精神』(岩波新書) 加茂利夫他著『現代政治学―新版―』(有斐閣アルマ) 他 (授業中に随時紹介します)						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会と政治B						
担当教員	奥西 達也						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	トピカルな政治問題を考える 授業では、私たちの日常生活と政治との関わりの深さを具体例を挙げながら認識してもらいます。それによって、生活を主体的に生きていく判断基準をもつひとつの契機になればと思っています。また、私たちの生活に深いかわりをもつとおもわれる国内外の政治問題について考察・検討します。新聞やメディアで話題に上っている政治関連記事やみなさんが関心を抱いているトピック(アンケートでたずねます)についてもとりあげ検討していく予定です。
授業計画 Syllabus	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 はじめに</li> <li>2 民主主義再考（最高？）(1)：民主主義の原点</li> <li>3 民主主義再考（最高？）(2)：民主主義のメリットとデメリット</li> <li>4 行政改革とその問題 (1)：公務員改革/官僚制度改革</li> <li>5 行政改革とその問題 (2)：教育・福祉行政</li> <li>6 司法制度改革とその問題 (1)：裁判員裁判制度</li> <li>7 司法制度改革とその問題 (2)：警察・検察と司法制度</li> <li>8 日本国憲法：護憲か改憲か(1)：憲法とは何か</li> <li>9 日本国憲法：護憲か改憲か(2)：改憲論議の背景と経緯</li> <li>10 歴史認識とナショナリズム(1)：「戦後」をめぐる「保守」と「革新」</li> <li>11 歴史認識とナショナリズム(2)：歴史認識と歴史問題</li> <li>12 対アジア関係(中国・韓国を中心に)</li> <li>13 対米・欧・露関係</li> <li>14 くらしと社会保障</li> <li>15 まとめと試験</li> </ul>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	極力双方向を目指したいと思います。 理解の確認・知識の整理のためにチェックシートを実施します。
評価方法 Evaluation	試験80%と平常点20%によって評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	提出物を指示された場合は期日を厳守すること。 新聞・テレビ・ネットの政治報道に目を向ける習慣をつけて下さい。問題意識をもって、積極的に授業に参加されることを期待します。
教科書 Textbook(s)	プリント・資料を配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何が出来るか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何ができるか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代社会とメディア／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何ができるか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養I						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間が長い歴史の中で積み上げてきた知的・文化的財産への理解を深め、現代的教養の基礎を築くことを目的として、西洋の古典的学芸における「普遍的教養」の理念とその成立の歴史について学ぶ。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：イントロダクションー「教養」「パイディア」「フマニタス」という言葉 古代ギリシアにおける普遍的教養という理念の成立</p> <p>第2回：ギリシア文化史概観ー ラファエロの「アテナイの学堂」「パルナッソス」</p> <p>第3回：ホメロスとギリシア人(1)ー「この詩人がギリシア人を教育してきた」</p> <p>第4回：ホメロスとギリシア人(2)</p> <p>第5回：前5世紀のアテナイの文化状況</p> <p>第6回：ソフィストの教育運動と文芸批評</p> <p>第7回：ソフィストの教育運動と弁論術</p> <p>第8回：ソクラテスの知恵と無知</p> <p>第9回：『プロタゴラス』のミュートス</p> <p>第10回：プラトンの教育論(1)</p> <p>第11回：プラトンの教育論(2)</p> <p>第12回：プラトンの教育論(3)</p> <p>第13回：イソクラテスの修辞学校</p> <p>第14回：フマニスムス（ヒューマニズム）の流れ</p> <p>第15回：まとめと展望、最終テスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義。受講人数にもよるが、できるだけ史料テキストと一緒に読んで、ディスカッションの時間を多く取りたい。
評価方法 Evaluation	授業への参加度や課題への取組みなどの平常点30%と最終テスト70%で評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	基本的に講義であるから、しっかり聴講し、ノートも取ったうえで、指示されたテキストや参考書目を自分で読んで理解を固める努力が必要。 本を読んで考えること、歴史を学ぶこと、ものごとの意味を尋ねて了解できることに喜びを感じる人の履修を求める。ただ受身で出席するだけでは単位修得はむずかしい。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業時に指示する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の教養II						
担当教員	待田 昌二						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	科学・技術が急速に発達し、社会生活も大幅に変化した現代であるからこそ、自己形成と社会的実践に通底する基盤的能力ともいえる「教養」が必要になっている。「教養」とはまた、多くの情報に溢れた現代社会において、必要な知識を選択したり、応用したり、あるときは物事に対して論理的に批判するための豊かな知識とものの見方を与えてくれる。この授業では、人間自身を対象とした科学的探求について学び考えながら、現代的教養の基礎を築くことを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回 人間の悩みを人類進化から考える 第2回 人間の祖先はサルって本当？ 第3回 “原始人”て、どんな人？ 第4回 人間は何が得意か：動物との比較 第5回 人間が見る世界：人間は他の動物と同じ世界を見ているのか 第6回 人間が聞いている音：人間は他の動物と同じ音を聞いているのか 第7回 音によるコミュニケーション 第8回 変わった動物の変わった世界 第9回 道具を使う 第10回 人間は真似をする動物である 第11回 人間の社会と動物の社会 第12回 メスとオス、女と男 第13回 協力と助け合い 第14回 社会生活が感情を豊かにした 第15回 現代社会と人間
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	授業時に毎回提出する小課題50%と試験50%
履修上の注意 Requirements and policy	教科書を使わないので、出席してノートを取り、配布プリントを必ず受け取ること。
教科書 Textbook(s)	
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の自然観						
担当教員	谷塚 昇						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>主な科学者の人物と発見の歴史を通して現代の自然観を理解できるように導く。 現代の自然観は、ギリシャからローマ時代を経て、キリスト教と深く係わるヨーロッパ文明の中で醗酵しつつ生まれたものである。中世後期から近代に至る神学者、哲学者、科学者の生涯を取り上げて、科学的真理が発見されるに到った時代背景、人物、発見の内容などを解説する。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに</li> <li>2. 古代ギリシャからローマ時代</li> <li>3. 修道士ロジャーベーコン</li> <li>4. コペルニクスの地動説</li> <li>5. ガリレイとピサの斜塔</li> <li>6. ケプラーと火星の軌道</li> <li>7. ニュートンと万有引力</li> <li>8. ファラデーと電磁誘導</li> <li>9. マクスウェルと電気磁気の理論</li> <li>10. ダーウィンと進化論</li> <li>11. アインシュタインの時間・空間</li> <li>12. コンピュータを創造した人々</li> <li>13. 宇宙へのひろがり</li> <li>14. 科学と宗教の意味</li> <li>15. 記入式試問</li> </ol>
参照URL Referance URL (s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席5割、レポート2割、記入式試問3割の配分で成績を評価する。記入式試問は、授業で配布した資料やノートを参考にして質問に答える。
履修上の注意 Requirements and policy	授業中の質問、感想や意見などは出席票に書いてください。授業に出席して興味を引き出された問題についてレポートにまとめて提出してください。授業中は周りの人の迷惑にならないよう私語を慎むこと。
教科書 Textbook (s)	毎回プリントを配布します。
参考書 Reference (s)	必要があれば授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	現代の倫理						
担当教員	堀川 敏寛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	本講義では、現代における具体的な倫理問題を、主に西洋思想史の考え方を基に解釈する。毎回の講義では、我々が日常的に直面する倫理的な諸問題を紹介し、それに対して哲学・倫理学がどのように応えるのか検討する。また、現代の様々な社会問題を取り上げ、その時事的な事例から「倫理」について考察する。今年度は特に「環境倫理」に焦点をあてる。						
授業計画 Syllabus	第1回 倫理とは何か。和辻哲郎『人間の学としての倫理学』より 第2回 自由とは何か。アーレント『革命について』より 第3回 倫理と法律。実際の裁判記録を事例に法的正義と倫理的正義について検討 第4回 男女の倫理。男にとっての当たり前と女にとっての当たり前、両者のすれ違いは 第5回 CO2と地球温暖化のメカニズム 第6回 自然環境とフェミニズムの問題 第7回 フロンティア倫理を基とした自然破壊の進行 第8回 救命ボート倫理に見る先進国と発展途上国の現在 第9回 宇宙船倫理から考える閉じられたシステムとしての地球 第10回 現代の人口爆発と近い将来に起こりうる諸問題 第11回 持続可能な社会を目指して。地球に優しい倫理的生き方とは。 第12回 アニメ版「風の谷のナウシカ」における自然環境の結末 第13回 原作版「風の谷のナウシカ」における自然環境の結末 第14回 「もののけ姫」にみる自然と人間の共生のあり方 第15回 講義のまとめと試験対策						
参照URL Referance URL (s)							
授業方法 Class type	講義形式。基本プリント類は配布せず、黒板の板書をメインに進める。						
評価方法 Evaluation	小テストを兼ねた平常点 60% 期末試験 40%						
履修上の注意 Requirements and policy	学期末試験のみでは不合格。出席点を兼ねた通常授業における小テストが不可欠。						
教科書 Textbook (s)	その都度、こちらから授業において紹介する。						
参考書 Reference (s)	参考図書、参考文献は特に指定しない。						
備考 Remarks	意欲のある学生、全15回の授業に皆勤で出席した学生は積極的に評価する。授業中の質問に対し、発言をする学生を、積極的に評価する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のこころと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知らせていくことを目指している。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健の概要</li> <li>2 こころはどこにあるのか</li> <li>3 性格とは</li> <li>4 ストレスの正体とそのマネージメント</li> <li>5 大切なものを失ったとき</li> <li>6 コラージュづくり</li> <li>7 睡眠</li> <li>8 タイプA</li> <li>9 神経症性障害</li> <li>10 多重人格障害</li> <li>11 ストレスが原因のこころの病気</li> <li>12 こころの風邪 うつ病</li> <li>13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害</li> <li>14 脳の不調和 統合失調症</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう
評価方法 Evaluation	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する
履修上の注意 Requirements and policy	出席とレポートを重視する。遅れてのレポートは認めない。
教科書 Textbook(s)	毎回資料を配布する
参考書 Reference(s)	なし

備考 Remarks	なし
---------------	----

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	藤野 真弓						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>私たちはよく「こころは目に見えないからわかりにくい」と思い込んでしまいがちである。だが、目に見えないものでもそれらを感じることはでき、精神の健康の維持と向上のためには、そうした感じ取る力を大きくしていかなければならないと考える。こころの健康に関する理解を深めるために、こころの病についての知識を得ることは重要である。しかし病気に罹らないことだけが大切なのではない。どのようにすればこころの健やかさを育て、保ち、高めることができるかについて、自分自身のことと向き合いながら感じる・考える作業が必要であると考えている。従って本講義では精神疾患の基本的な知識・予防・対処法に加え、自分のこころについても身の丈で感じられるよう、できるだけ生活に密着したところでこころを捉えることを目的とし、こころの健やかさについて心理学的な視点から考察する。授業では実際に心理検査やコラージュ療法などをおこない、それらをレポートにまとめる作業を通して自分を知らせていくことを考えている。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健の概要</li> <li>2 こころはどこにあるのか</li> <li>3 性格とは</li> <li>4 ストレスの正体とそのマネージメント</li> <li>5 大切なものを失ったとき</li> <li>6 コラージュづくり</li> <li>7 睡眠</li> <li>8 タイプA</li> <li>9 神経症性障害</li> <li>10 多重人格障害</li> <li>11 ストレスが原因のこころの病気</li> <li>12 こころの風邪 うつ病</li> <li>13 自分づくりがうまくいかない！ 摂食障害</li> <li>14 脳の不調和 統合失調症</li> <li>15 まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	毎回のテーマに沿った講義と、実際に課題に取り組んでレポートにまとめる作業をおこなう
評価方法 Evaluation	出席状況と授業中に課すレポートの評価（6割）、定期試験（4割）を総合評価する
履修上の注意 Requirements and policy	出席とレポートを重視する。遅れてのレポートは認めない。
教科書 Textbook(s)	毎回資料を配布する
参考書 Reference(s)	なし

備考 Remarks	なし
---------------	----

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	こころの健康						
担当教員	前原 真比子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	現代に生きる私達は、急激な時代の変化や価値観の多様化に伴い、社会生活や対人関係において様々なストレスの影響を受け、主体的に生きることの難しさを抱えている。「こころの健康」は人が生き生きとした生活を営む上で大切な指標となる。本講義ではストレスについて心理学的に考察する中で心の病について概説し、その予防及び対処法を学ぶ。また、授業では実際にストレスマネジメントに関する体験的学習（リラクゼーションや質問紙等）を取り入れながら学習を進める。その過程で自分を振り返り、自分が感じていることへの気づきを土台にして自己理解を深める。そしてストレスや心の病に関する知識と自己理解を総合し、各自が主体的なセルフコントロール法を工夫できる機会となればと考えている。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 自己理解と他者理解（自己開示と傾聴） 第3回 心理療法から学ぶ（来談者中心療法） 第4回 心理療法から学ぶ（精神分析） 第5回 心理療法から学ぶ（交流分析、エゴグラム） 第6回 心理療法から学ぶ（論理療法、アサーション） 第7回 心理療法から学ぶ（行動療法、森田療法、内観療法 他） 第8回 心理社会的発達とこころの健康 第9回 ストレスとこころの健康（ストレスチェック、コーピング） 第10回 ストレスとこころの健康（メンタルヘルスの基礎知識、うつへの理解） 第11回 トラウマティック・ストレスとは 第12回 犯罪被害者（遺族）の心の傷 第13回 関係性の病理（児童虐待） 第14回 関係性の病理（ドメスティックバイオレンス） 第15回 まとめと試験
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席点50%（感想文提出）、テスト（最終講義時）50%
履修上の注意 Requirements and policy	出席重視、私語厳禁
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。
授業計画 Syllabus	①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	コミュニケーション・スキル／コミュニケーション演習						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習・提出物評価【50%】、レポート【20%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。
教科書 Textbook(s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。

参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学						
担当教員	大久保 元正						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	私たちが生きているのは「現代社会」です。この「現代社会」は流動的、つまり動きが速くてじっとしていないということで有名です。私たちは、その中に投げ込まれているのです。この講義では、そんな「現代社会」について様々な角度から幅広く知ること、動きの速さの根底を見極め、自分たちが生きている社会に向き合えるようになることを目標とします。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション——授業内容の紹介</li> <li>2. 消費社会——消費があなたを形づくる</li> <li>3. マクドナルド化社会——「合理性の非合理性」という矛盾</li> <li>4. リスク社会——もう誰もリスクから逃れられない</li> <li>5. 監視社会——誰が誰を監視するのか？</li> <li>6. 自己の社会学——自分の内面と社会の現代的な関係</li> <li>7. 感情の社会学——自然に湧き上がるものだけが感情か？</li> <li>8. ジェンダーの社会学——男/女の境界を越えて</li> <li>9. 恋愛と結婚の社会学——変わりゆく恋愛・結婚の形</li> <li>10. 家族の社会学——現代の家族はどこへ向かうか</li> <li>11. 仕事の社会学——人はなぜ働くのか</li> <li>12. ファッションの社会学——何のために着飾るのか</li> <li>13. メディアの社会学——交錯するメディア空間</li> <li>14. 宗教の社会学——日本人でも無関係なわけではない</li> <li>15. まとめ——あらためて「現代社会」とは</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末レポート100%。 ただし、私語など、受講態度が極めて悪い者はレポート提出資格を剥奪する。
履修上の注意 Requirements and policy	履修条件：特になし。 授業外における学習：授業後に、ノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。
教科書 Textbook(s)	なし。講義内容をノートに書いてもらいます。
参考書 Reference(s)	なし。
備考 Remarks	なし。

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会学概論						
担当教員	大久保 元正						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「社会」とは、普段はほとんど意識しないのに、間違いなく、いつでもどこでも皆さんを「縛って」いるものです。この「縛り」は、皆さんの重荷になる時があれば、皆さんの身心を軽くしてくれる時もあります。この授業では、そんな「社会」の正体を1つずつ知っていくことで、「縛り」に振り回されないよう、自分なりに「縛り」と向き合えるようになることを目標とします。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション——授業内容紹介</li> <li>2. 「社会」のイメージと社会学の基本的な考え方</li> <li>3. 自己——「見る自分」と「見られる自分」</li> <li>4. 行為——欲求・目的・手段</li> <li>5. 相互作用①——地位と役割のはたらき</li> <li>6. 相互作用②——「意味」の交換</li> <li>7. 集団・組織①——集団の分類とはたらき</li> <li>8. 集団・組織②——大規模な組織のメカニズム</li> <li>9. 社会秩序①——社会はどうやって「収まって」いるか</li> <li>10. 社会秩序②——続・社会はどうやって「収まって」いるか</li> <li>11. 全体社会①——社会の大きな特徴：大衆社会</li> <li>12. 全体社会②——社会の大きな特徴：消費社会</li> <li>13. 社会変動①——社会の何がどのように変わるのか</li> <li>14. 社会変動②——現代の変動：グローバル化</li> <li>15. まとめ——あらためて「社会」とは</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	<p>期末レポート100%。 ただし、私語など、受講態度が極めて悪い者はレポート提出資格を剥奪する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>履修条件：特になし。 授業外における学習：授業後に、ノートを見直して、分からないところがあったら、次回の授業時にどんどん質問してください。</p>
教科書 Textbook(s)	なし。講義内容をノートに書いてもらいます。
参考書 Reference(s)	なし。
備考 Remarks	なし。

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会心理学						
担当教員	中里 直樹						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的・概要】 この授業の目的は、社会心理学の基礎について学ぶことです。社会心理学は、身近な他者や所属している集団、社会的環境が私たちの心の動きにどのように影響を与えるかを考える心理学の一分野です。この授業では、社会心理学の研究領域の中から、社会的自己、社会的認知、社会的態度といった個人レベルのことにについて講義します。この授業を受講することで、社会心理学の中の個人レベルについての基礎知識を得ることが出来ます。また、理論的なことのみならず、みなさんの生活にどう結び付くかを考える機会を提供できればと思います。</p> <p>【テーマとキーワード】 社会心理学の個人レベル、社会的自己、社会的認知、社会的態度</p>						
授業計画 Syllabus	<p>【第1回】 社会心理学イントロダクション：社会心理学の定義と研究法 【第2回】 社会的自己(1)：自分についての知識 【第3回】 社会的自己(2)：自分についての評価 【第4回】 社会的自己(3)：自分と他者との比較 【第5回】 社会的自己(4)：自分についての意識 【第6回】 社会的自己(5)：他者に見せる自分 【第7回】 社会的認知(1)：他者についての印象形成 【第8回】 社会的認知(2)：スキーマとヒューリスティック 【第9回】 社会的認知(3)：物事の原因について考える 【第10回】 社会的認知(4)：推論と帰属の誤り 【第11回】 社会的態度(1)：態度の形成 【第12回】 社会的態度(2)：態度変容とバランス理論 【第13回】 社会的態度(3)：態度変容と認知的不協和理論 【第14回】 前期授業の振り返り 【第15回】 前期試験とまとめ</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。数回に1度、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めることがあります。						
評価方法 Evaluation	期末試験(50%)、出席状況(30%)、提出課題(20%)で総合的に評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 履修の対象者 心理学や対人関係に興味を持っている人に受講してもらいたいです。後期授業「人間関係論」とあわせて履修することが望ましいです。</p> <p>(2) 授業外における学習 毎授業ごとに配布資料と教科書を用いて、復習してください。そうすることが、テスト対策になります。</p> <p>(3) その他 座席指定とします。</p>						
教科書 Textbook(s)	『社会心理学(初版)』(藤原武弘 編著、晃洋書房、2009年、ISBN978-4-7710-2010-8)						
参考書 Reference(s)	授業の内容をまとめたプリントを配布します。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	社会福祉概論						
担当教員	中村 和子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	社会福祉は、障がい者や高齢を持つ人たちのための制度や施策だけではなく、私たち全ての人々の身近な生活に関わっている。そのことを知るためにも「社会福祉とは何か」を、講義を通して基本的なことについて学んでいく。そして、福祉の観点から「人間とは何か」、「どう生きていくか」、そして「幸せとは何か」を考えることで、今後の生活や仕事において学習した基本的なことを必要に応じて活用することができることを目的とする。
授業計画 Syllabus	<p>第1回 シラバス、(第1章)社会福祉とは何か—概念、原理</p> <p>第2回 (第1章)社会福祉とは何か—社会保障</p> <p>第3回 人口学と社会福祉—少子高齢化、ベビーブーム</p> <p>第4回 人口学と社会福祉—年金問題</p> <p>第5回 (第2章)社会福祉と歴史—戦後社会福祉事業への展開</p> <p>第6回 (第3章)社会福祉の法と行財政</p> <p>第7回 (第4章)ソーシャルワークの理解—ソーシャルワークの展開過程、(第5章)最低生活保障と生活保護制度—貧困(ビデオ学習)、生活保護制度</p> <p>第8回 (第5章)最低生活保障と生活保護制度—生活保護制度の実態(ビデオ学習)、(第6章)児童家庭福祉と次世代育成の展開—少子化進行</p> <p>第9回 (第6章)児童家庭福祉と次世代育成の展開—児童家庭福祉の課題、虐待(ビデオ学習)</p> <p>第10回 (第7章)障がい者の自立と福祉—障がいの概念、障がい者の概況、理念</p> <p>第11回 (第7章)障がい者の自立と福祉—障がい者が生き生きと暮らせる社会を目指して(ビデオ学習)</p> <p>第12回 ビデオ学習(補助犬法案—介助犬について)</p> <p>第13回 (第8章)高齢者の生活と福祉—高齢者福祉、理念(ビデオ学習)</p> <p>第14回 (第8章)高齢者の生活と福祉—介護保険制度</p> <p>第15回 (第8章)高齢者の生活と福祉—高齢者施設(ビデオ学習)、ボランティアについて</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式、ビデオ学習、ディスカッション(1回)
評価方法 Evaluation	小テスト(3回)50%、ディスカッション(1回)10%、感想メモ(講義とビデオ学習から)20%、学習ノート(講義内容を授業中に記述する)20%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 携帯電話は電源を切るかマナーモードにしてかばんに入れて受講すること。</p> <p>(2) 私語を慎むこと。</p> <p>(3) 欠席(遅刻早退は3回で1回の欠席として扱う)5回以上は成績「不可」となる。就職活動やクラブの試合で欠席する場合は要相談。</p>
教科書 Textbook(s)	「社会福祉とは何か」、大久保秀子著、中央法規出版株式会社、ISBN978-4-8058-3285-1 1500円(税別)
参考書 Reference(s)	

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学A／生涯発達心理学1						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では乳児期・幼児期・児童期を扱う。
授業計画 Syllabus	<p>個体の発達的変化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション～生涯発達とは</li> <li>2. 発達的一般的傾向</li> <li>3. 遺伝と環境</li> <li>4. 発達初期におけるヒトの特殊性</li> <li>5. アヴェロンの野生児</li> <li>6. 発達課題・発達段階（ハヴィガースト）</li> <li>7. 発達課題・発達段階（エリクソン）</li> <li>8. 愛着と親子関係 1</li> <li>9. 愛着と親子関係 2</li> <li>10. 知覚の発達</li> <li>11. 感情の発達</li> <li>12. 思考の発達</li> <li>13. 自己概念の発達</li> <li>14. 性の分化, ジェンダー</li> <li>15. 補足とまとめ</li> </ol> <p>期末テスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	<p>期末テスト70%，小テスト30%</p> <p>小テストの実施日は予告しない。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語厳禁。</li> <li>・新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。</li> <li>・小テストの実施日は予告しないので、各自で毎回復習をしておくこと。</li> <li>・10回以上の出席がないと、受験資格を認めない。</li> <li>・通常授業終了後に期末試験を実施する予定である。</li> </ul>
教科書 Textbook(s)	プリント使用。
参考書 Reference(s)	講義中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学A／生涯発達心理学1						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では乳児期・幼児期・児童期を扱う。  個体の発達的变化のイメージを描き、各発達段階における理論と自分自身の経験とをすり合わせることにより、人間発達に関する一層の理解を深めてもらいたい。
授業計画 Syllabus	1. オリエンテーション～生涯発達とは 2. 発達的一般的傾向 3. 遺伝と環境 4. 発達初期におけるヒトの特殊性 5. アヴェロンの野生児 6. 発達課題・発達段階（ハヴィガースト） 7. 発達課題・発達段階（エリクソン） 8. 愛着と親子関係 1 9. 愛着と親子関係 2 10. 知覚の発達 11. 感情の発達 12. 思考の発達 13. 自己概念の発達 14. 性の分化, ジェンダー 15. 補足とまとめ 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末テスト70%, 小テスト30% 小テストの実施日は予告しない。
履修上の注意 Requirements and policy	・私語厳禁。 ・新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。 ・小テストの実施日は予告しないので、各自で毎回復習をしておくこと。 ・10回以上の出席がないと、受験資格を認めない。 ・通常授業終了後に期末試験を実施する予定である。
教科書 Textbook(s)	プリント使用。
参考書 Reference(s)	講義中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学B／生涯発達心理学2						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。 人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。  前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。
授業計画 Syllabus	1. オリエンテーション 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. 発達課題・発達段階 — エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 — 現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ 10. 配偶者選択 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化 1 13. 少子化 2 14. 老親扶養 15. 補足とまとめ 期末テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末テスト70%，小テスト30% 小テストの実施日は予告しない。
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語厳禁。</li> <li>・新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。</li> <li>・小テストの実施日は予告しないので、各自で毎回復習をしておくこと。</li> <li>・10回以上の出席がないと、受験資格を認めない。</li> <li>・通常授業終了後に期末試験を実施する予定である。</li> </ul>
教科書 Textbook(s)	プリント使用。
参考書 Reference(s)	講義中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生涯発達心理学B／生涯発達心理学2						
担当教員	柳原 利佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	人間の発達過程を生涯発達の視点から検討する。 人間発達を受精から死に至るまでの一生涯を対象として捉え、さまざまな現象を心理学的側面から概説する。特に、本講義では青年期以降を扱う。  前半では「自分を知る」をテーマとして、自己への問い直し、職業選択、後半では「家族の一員としての自分の位置づけ」をテーマとして、恋愛、結婚などに伴う男女の関係や親子関係、家族の再構成などのさまざまなライフイベントについての将来展望を構築し、生涯発達の視点を理解することを目指す。
授業計画 Syllabus	1. オリエンテーション 2. 身体の認知 3. 性役割観 4. 発達課題・発達段階 — エリクソンの発達理論 5. パーソナリティの発達 6. パーソナリティの測定 7. 自己の統合 — 現実自己と理想自己 8. ストレスとその対処 9. 前半の補足とまとめ 10. 配偶者選択 11. 子どもを持つという選択 12. 少子化 1 13. 少子化 2 14. 老親扶養 15. 補足とまとめ 期末テスト
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末テスト70%，小テスト30% 小テストの実施日は予告しない。
履修上の注意 Requirements and policy	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私語厳禁。</li> <li>・新聞や雑誌記事などに掲載されている子どもの発達や教育に関する情報に注目しておくこと。</li> <li>・小テストの実施日は予告しないので、各自で毎回復習をしておくこと。</li> <li>・10回以上の出席がないと、受験資格を認めない。</li> <li>・通常授業終了後に期末試験を実施する予定である。</li> </ul>
教科書 Textbook(s)	プリント使用。
参考書 Reference(s)	講義中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	食物と健康						
担当教員	原 正之						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	まず食物に含まれる栄養分の吸収と身体の中の代謝の基礎的な解説を行い、続いて健康や食品に関わる話題などに触れる予定。前半では食物の消化と吸収のしくみや、血液による栄養分の循環と老廃物の排泄などについて概説する。さらに、蛋白質、糖質、脂質の代謝とこれに影響を与えるビタミンやホルモンの役割について解説し、さらに体外から取り込んだ薬物や異物の代謝についても触れる。代謝についてのこれらの基礎的な知識をふまえた上で、後半では脳神経系を介した食欲の調節機構、人体の概日リズム（体内時計）、健康食品、食品の安全性についての話題など、いくつかの関心の高いトピックスについて内容を解説する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食物の消化と吸収のしくみ</li> <li>2. 栄養分の循環と老廃物の排泄</li> <li>3. 蛋白質の代謝</li> <li>4. 糖質の代謝</li> <li>5. 脂質の代謝</li> <li>6. 薬物や異物の代謝</li> <li>7. ミネラルの代謝</li> <li>8. ビタミンの役割</li> <li>9. ホルモンの働き</li> <li>10. 食欲の調節機構</li> <li>11. 人体の概日リズム</li> <li>12. 健康食品について</li> <li>13. 生活習慣病</li> <li>14. 食品に関わるトピックス（報道記事などを参考にして事例を解説）</li> <li>15. 全体のまとめ</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	資料等を配付して講義を行う。
評価方法 Evaluation	平常点（出席）50%、と課題レポートの提出50%により、評価する。
履修上の注意 Requirements and policy	参考図書としては、健康食品などについてのいわゆるハウツー本等ではなく、食品科学や栄養学の基礎的な解説書や教科書を読むことを薦める。
教科書 Textbook(s)	教科書は特に指定しない。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史A						
担当教員	古田 雅一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜5	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを紀元前4000年頃の古代ギリシャから近代に至るまで包括的に論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのようにかかわっているかの理解を深める。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対しても高い見識を持つて的確に判断し次世代に伝えていく力を養うことを目的とする。						
授業計画 Syllabus	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、地球の誕生から生命の誕生へ(化石が示す生物の進化) 第3回、地球環境の変化と生物の進化 第4回、ヒト(ホモサピエンス)の誕生、 第5回、第6回、科学の黎明-I(先史時代:火の使用、古代メソポタミア、古代エジプト、古代インド) 第7回、第8回、科学の黎明-II(古代ギリシャ、古代ローマ、古代中国における科学の萌芽) 第9回、中間まとめ 第10回、中世をリードしたイスラム科学(錬金術、数学、物理学、天文学など) 第11回、中世ヨーロッパの科学(キリスト教的世界観の下での科学技術の動向) 第12回、ルネサンス時代の科学(芸術の復活、再生の中で科学技術の推移) 第13回、大航海時代の科学技術 第14回、近代科学の幕開け(近代ヨーロッパの形成と科学技術の推移発展) 第15回、授業の総まとめと試験						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	教科書を軸にしながらも適宜参考情報・教材を盛り込みながら、興味深く学んでいけるよう配慮したい。						
評価方法 Evaluation	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。						
履修上の注意 Requirements and policy	歴史の中で自然科学がどのように人々に認識され発達していったかが重要なポイントになると考えます。したがって歴史や小中学校、高校で学んだ理科の知識を復習し、それらがどの時代に確立したかに注目して予習しておいていただくとありがたいです。						
教科書 Textbook(s)	適宜プリントなど配布						
参考書 Reference(s)	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳 ; 1-4 / フリードリヒ・ダンネマン著 ; 安田徳太郎訳編						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	自然科学史B						
担当教員	古田 雅一						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	地球の歴史、生命の誕生からヒトへの発展の歴史を踏まえ、人類の発達進化の過程で培ってきた科学技術の歩みを特に科学技術の発達の著しい近、現代の状況を歴史、世相を踏まえて包括的に論じ、先人たちの偉業が現代の我々の生活にどのようにかかっているかの理解を深める。またこれらの理解をもとに現在の科学技術に対しても高い見識を持つて的確に判断し次世代に伝えていく力を養うことを目的とする。
授業計画 Syllabus	第1回、オリエンテーション、自然科学史とは何か(講義の概要) 第2回、花開く近代科学の時代-I (科学的思考の芽生え、宗教的世界観からの独立) 第3回、花開く近代科学の時代-II (16~17世紀に活躍した科学者たち：物理、天文学) 第4回、花開く近代科学の時代-III (16~17世紀に活躍した科学者たち：化学、生物学) 第5回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展) -I 第6回、中国、日本の科学(中世から近世にかけてのアジア地域の科学技術の発展) -II 第7回、中間まとめ 第8回、現代科学の幕開け-I (産業革命前夜の歴史、世相と科学技術) 第9回、現代科学の幕開け-II (産業革命に伴う資本主義の発展と科学技術) 第10回、20世紀の科学の光と影-I (20世紀の科学の巨人たち、物理学) 第11回、20世紀の科学の光と影-II (20世紀の科学の巨人たち、科学、生物学) 第12回、20世紀の科学の光と影-III (20世紀の戦争と科学技術) 第13回、現代の科学-I (第二次世界大戦後の科学) 第14回、現代の科学-II (現代の最先端科学とこれからの科学の方向性は) 第15回、授業の総まとめ、試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	教科書を軸にしながらも適宜参考情報・教材を盛り込みながら、興味深く学んでいけるよう配慮したい。
評価方法 Evaluation	平常点60%、期末テストまたはレポート40% 欠席した場合は平常点を減点する。
履修上の注意 Requirements and policy	歴史の中で自然科学がどのように人々に認識され発達していったかが重要なポイントになると考えます。したがって歴史や小中学校、高校で学んだ理科の知識を復習し、それらがどの時代に確立したかに注目して予習しておいていただくとありがたいです。
教科書 Textbook(s)	橋本浩 著 「早わかり科学史」 日本実業出版社
参考書 Reference(s)	木下康彦、木村靖二、吉田寅 編 「詳説 世界史研究」 山川出版社 Ch. シンガー著 伊藤俊太郎、木村陽二郎、平田寛訳 「科学思想のあゆみ」 岩波書店 大自然科学史 新訳；5-13 / フリードリヒ・ダンネマン著；安田徳太郎訳編
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学／心理学I						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の概要</p> <p>心とは何か考える時最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識だろう。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界がある。私たちの心は意識していないところで様々なことをしている。それゆえ、心について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学ぶ。</p> <p>授業の目的</p> <p>(1) 心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。  (2) 成長と発達過程における心理学との関係について理解する。  (3) 心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 心理学とは何か</p> <p>第2回 科学としての心理学</p> <p>第3回 心の発達</p> <p>第4回 感覚と知覚</p> <p>第5回 学習</p> <p>第6回 思考と言語</p> <p>第7回 知能・記憶</p> <p>第8回 脳と心の働き</p> <p>第9回 動機づけ</p> <p>第10回 認知と感情</p> <p>第11回 記憶・性格</p> <p>第12回 ストレスと健康</p> <p>第13回 社会と行動</p> <p>第14回 精神障害</p> <p>第15回 心理療法</p> <p>「期末テスト」</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントによる講義形式
評価方法 Evaluation	リアクションペーパー20%、予習レポート30%、期末テスト50%
履修上の注意 Requirements and policy	心理学の基礎知識を習得するための導入授業です。心理学的ものの見方考え方を学んでください。積極的なリアクションペーパーと予習レポートの提出を望みます。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない（プリントを配布します）。
参考書 Reference(s)	心理学、鹿取廣人/杉本敏夫 [編]、東京大学出版 ISBN4-13-012029-8 心の科学、生和秀敏 [編]、北大路書房、ISBN4-7628-2311-2
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学／心理学I						
担当教員	中里 直樹						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的・概要】</p> <p>この授業の目的は、私たちの心の動きや行動について考える学問である心理学の基礎を学ぶことです。具体的には、これまで心理学がたどってきた歴史の振り返り、そしてパーソナリティ心理学、社会心理学、基礎心理学、発達心理学などの各分野の基礎について講義します。この授業を受講することで、心理学とはどのような学問なのか、心理学にはどのような分野があるのかを理解できるようになります。また、人間の心と行動について理解を深める機会を提供できればと思います。</p> <p>【テーマとキーワード】</p> <p>様々な心理学の分野、パーソナリティ心理学、社会心理学、発達心理学、基礎心理学</p>
授業計画 Syllabus	<p>【第1回】 心理学イントロダクション：心理学の定義と研究方法</p> <p>【第2回】 パーソナリティ心理学(1)：パーソナリティとは何か？</p> <p>【第3回】 パーソナリティ心理学(2)：ビッグ・ファイブ理論</p> <p>【第4回】 パーソナリティ心理学(3)：パーソナリティへの遺伝と環境の影響</p> <p>【第5回】 パーソナリティ心理学(4)：パーソナリティの変化可能性</p> <p>【第6回】 知能と心理学</p> <p>【第7回】 社会心理学(1)：態度と説得的コミュニケーション</p> <p>【第8回】 社会心理学(2)：親密な人間関係</p> <p>【第9回】 社会心理学(3)：集団と個人</p> <p>【第10回】 基礎心理学(1)：知覚・記憶</p> <p>【第11回】 基礎心理学(2)：学習</p> <p>【第12回】 発達心理学(1)：ライフサイクル論</p> <p>【第13回】 発達心理学(2)：子供時代の発達</p> <p>【第14回】 前期授業の振り返り</p> <p>【第15回】 前期試験とまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。数回に1度、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めることがあります。
評価方法 Evaluation	期末試験(80%)と提出課題(20%)で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 履修の対象者</p> <p>心理学や人間の心・行動に興味を持っている人に受講してもらいたいです。後期授業「心理学II」とあわせて履修することが望ましいです。</p> <p>(2) 授業外における学習</p> <p>毎授業ごとに配布資料を用いて、復習してください。そうすることが、テスト対策になります。</p>
教科書 Textbook(s)	授業の内容をまとめたプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学II						
担当教員	堤 俊彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の概要 現代社会においてより良く生きるための人の心や人間関係の理解、メンタルヘルスや心の障害といった観点から、心理学によって明らかにされてきた知識を学ぶ。その上で、必要となる心の問題や対応法や援助法についての理解を深める。たとえば、心理的な問題の対象としてメディアでも取り上げられる虐待、情緒的問題、発達障害、非行や不登校、うつや不安、心身症の問題などに関する基本的理解を深める。そして、これらの問題に対する正確な基礎知識を修得することで、客観的な視点をもって問題の理解と援助について考察できることを目指す。</p> <p>授業の目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生活適応と心の健康との関係について理解する。</li> <li>(2) 人の発達と障害の関係について理解する</li> <li>(3) 心理的援助の技法と実践について理解する。</li> <li>(4) より良く生きるために心の働きや行動について考える力を身につける。</li> </ul>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 心理学の基礎 第2回 心の発達 第3回 青年期の心の問題 第4回 カウンセリングと心の健康 第5回 発達と障害（1） 第6回 発達と障害（2） 第7回 学習障害 第8回 心理検査 第9回 学校臨床 第10回 児童福祉 第11回 ストレスと適応 第12回 認知行動的アプローチ（1） 第13回 認知行動的アプローチ（2） 第14回 健康と行動の変容法 第15回 対人支援のコミュニケーション 「期末テスト」</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントによる講義形式
評価方法 Evaluation	リアクションペーパー20%、予習レポート30%、期末テスト50%
履修上の注意 Requirements and policy	「心理学II」の受講者は、堤の「心理学I」を受講していることが望ましい。 積極的なリアクションペーパーと予習レポートの提出を望みます。
教科書 Textbook(s)	特に指定しない（プリントを配布します）。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学II						
担当教員	中里 直樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的・概要】</p> <p>この授業の目的は、様々な心理学の分野の観点から、心身の健康について学ぶことです。具体的には、健康心理学、臨床心理学、Well-being（ウェルビーイング＝幸せ）について講義します。ウェルビーイングについての講義では、パーソナリティ心理学、社会心理学、経済心理学などの観点から、幸福が心理学でどのように研究されているか学んでもらいます。この授業を受講することで、健康心理学、臨床心理学、ウェルビーイングの心理学の基礎知識を身につけることができます。また、心身ともに健康であるためのヒントを学ぶ機会を提供できればと思います。</p> <p>【テーマとキーワード】</p> <p>心身の健康についての心理学、健康心理学、臨床心理学、Well-being（ウェルビーイング＝幸せ）</p>
授業計画 Syllabus	<p>【第1回】 前期復習と後期イントロダクション</p> <p>【第2回】 健康心理学(1)：健康心理学とは何か？</p> <p>【第3回】 健康心理学(2)：ストレスとは何か？</p> <p>【第4回】 健康心理学(3)：ストレスへの対処方法</p> <p>【第5回】 健康心理学(4)：パーソナリティと健康</p> <p>【第6回】 健康心理学(5)：ストレスに対する準備</p> <p>【第7回】 臨床心理学(1)：臨床心理学とは何か？</p> <p>【第8回】 臨床心理学(2)：抑うつ の定義と発症プロセス</p> <p>【第9回】 臨床心理学(3)：治療方法</p> <p>【第10回】 ウェルビーイング(1)：科学としてのウェルビーイング</p> <p>【第11回】 ウェルビーイング(2)：お金とウェルビーイングの関係</p> <p>【第12回】 ウェルビーイング(3)：パーソナリティと環境のウェルビーイングへの影響</p> <p>【第13回】 ウェルビーイング(4)：ライフイベントとウェルビーイング</p> <p>【第14回】 後期授業の振り返り</p> <p>【第15回】 後期試験と全体のまとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。数回に1度、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めることがあります。
評価方法 Evaluation	期末試験(80%)と提出課題(20%)で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 履修の対象者</p> <p>心理学や心身の健康に興味を持っている人に受講してもらいたいです。必須条件ではありませんが、前期授業「心理学I」を履修していることが望ましいです。</p> <p>(2) 授業外における学習</p> <p>毎授業ごとに配布資料を用いて、復習してください。そうすることが、テスト対策になります。</p>
教科書 Textbook(s)	授業の内容をまとめたプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	『幸せを科学する(初版)』(大石繁宏, 2009, 新曜社, ISBN978-4-7885-1154-5)
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	堤 俊彦						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜5	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>授業の概要 心とは何か考える時最初に思い浮かべるのは、見たり聞いたり、昔の出来事を思い出したり、考えたりしている自分自身の意識だろう。しかし、心と意識は同じではない。意識の及ぶ範囲には限界がある。私たちの心は意識していないところで様々なことをしている。それゆえ、心について学ぶ必要がある。心理学は、心の働きを科学的・実証的に捉えようとする学問で、幅広い分野から成り立っている。この授業では心理学を概観し、普段あたり前のように思っている心の働きの不思議について学ぶ。</p> <p>授業の目的 （１）心理学理論を学ぶことによって、人の理解とその技法の基礎を理解する。 （２）成長と発達の過程における心理学との関係について理解する。 （３）心理学の知見や考え方を日常生活に応用する能力を得る。</p>						
授業計画 Syllabus	第1回 心理学とは何か 第2回 科学としての心理学 第3回 心の発達 第4回 感覚と知覚 第5回 学習 第6回 思考と言語 第7回 知能・記憶 第8回 脳と心の働き 第9回 動機づけ 第10回 認知と感情 第11回 記憶・性格 第12回 ストレスと健康 第13回 社会と行動 第14回 精神障害 第15回 心理療法 「期末テスト」						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	パワーポイントによる講義形式						
評価方法 Evaluation	リアクションペーパー20%、予習レポート30%、期末テスト50%						
履修上の注意 Requirements and policy	心理学の基礎知識を習得するための導入授業です。心理学的ものの見方考え方を学んでください。積極的なリアクションペーパーと予習レポートの提出を望みます。						
教科書 Textbook(s)	特に指定しない（プリントを配布する）						
参考書 Reference(s)	心理学、鹿取廣人/杉本敏夫〔編〕、東京大学出版 ISBN4-13-012029-8 心の科学、生和秀敏〔編〕、北大路書房、ISBN4-7628-2311-2						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	心理学概論						
担当教員	廣川 空美						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	心理学とは、こころの働きを科学的・実証的に捉えようとする学問である。本講義では、心理学の歴史を概観し、心理学の理論を理解することから、人間のこころの働きについて学ぶことを目的としている。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 心理学とは</li> <li>2. 心理学の研究方法</li> <li>3. 心理学の歴史と領域</li> <li>4. 学習（1）－学習理論</li> <li>5. 学習（2）－強化スケジュール</li> <li>6. 記憶</li> <li>7. 知覚（1）精神物理学</li> <li>8. 知覚（2）注意</li> <li>9. 動機づけ</li> <li>10. 情動（1）－情動の理論</li> <li>11. 情動（2）－情動と行動</li> <li>12. パーソナリティ</li> <li>13. 知能</li> <li>14. 模擬テスト</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	成績は記述式の試験を主に評価するが、講義中の提出物も加味する。
履修上の注意 Requirements and policy	
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	<p>授業中に紹介します。</p> <p>心理学の基礎 著 今田寛・宮田洋・賀集寛(倍風館)</p> <p>医療の行動科学～ミニマム・サイコロジー～ 著 山田富美雄(北大路書房)</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ジェンダー論入門／女性論I						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ジェンダーとは、「社会的、文化的な性差」と一般に訳されます。先天的なものではなく、文化的に身につけた、あるいは、作られた性差の概念の事です。この授業では、生物学的性とジェンダーの違い、なぜ、ジェンダーについて学ぶ必要があるのか、ジェンダー概念、ジェンダー研究の成果について勉強します。</p> <p>女性である皆さんが、どうやって自分らしく生きるかということについて、多くの情報を取り入れ、それに基づいて考え、そして意見を交わす授業です。</p> <p>これまでの女性の生き方の歴史を正確に知り、現在女性が抱えている問題を身近なところから検証しつつ、皆さん自身の未来へとつなげていきたいと思ひます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 授業のオリエンテーション（授業の目的、授業の進め方、評価の方法など）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考書の紹介</li> <li>・アンケート</li> </ul> <p>第2回 男と女の違い（?）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セックスとジェンダー</li> </ul> <p>第3回 ジェンダーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオ視聴</li> </ul> <p>第4回 結婚と女性・人生の選択肢</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夫婦別姓</li> </ul> <p>第5回 性別役割分業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家父長制・性差別（ことばとジェンダー）</li> </ul> <p>第6回 働き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正社員、派遣それともフリーター？</li> </ul> <p>第7回 労働とジェンダー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セクシャルハラスメント</li> </ul> <p>第8回 主婦と家事</p> <p>第9回 恋愛と人間</p> <p>第10回 恋愛が排除するもの（</p> <p>第11回 教育とジェンダー</p> <p>第12回 隠れたカリキュラム</p> <p>第13回 ドメスティック・バイオレンス</p> <p>第14回 女性運動の歴史</p> <p>第15回 前期授業のまとめとテスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義とテキストの問題に対する意見を書いて考え、討論する。
評価方法 Evaluation	何回かの小レポート（30%）期末テスト（50%）平常点（20%）
履修上の注意 Requirements and policy	<p>普段から、ジェンダー、女性の生き方などに興味を持って、授業にのぞんで下さい。</p> <p>レポートは、期日に遅れた場合受け付けません。</p> <p>必ずテキストを購入すること（定期試験はテキスト持ち込み可です。）</p>
教科書 Textbook(s)	<p>小平麻衣子・氷見直子著</p> <p>『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』</p> <p>新水社 2006</p> <p>ISBN 4-88385-086-2</p>

参考書 Reference(s)	授業中に発表します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と健康						
担当教員	北山 千嘉子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	リプロダクティブヘルス/ライツの概念から女性の健康を考察し、生涯をその人らしく生きるために、世界の保健福祉システムや女性の現状を学習し理解を深める。ジェンダー平等教育、性的自己決定権、男女共同参画社会における両性の理解などを考えていく。また、優先度が高いにもかかわらず、軽視されてきた女性の健康に対するニーズ、家族的責任や社会的責任を果たすために、ゆとりある健康環境を講義する。						
授業計画 Syllabus	第1回：女性の健康概念と基本理論① 第2回：女性の健康概念と基本理論② 第3回：女性の健康概念と基本理論③ 第4回：母子保健概論 第5回：母子保健統計 第6回：母子保健事業・児童福祉事業① 第7回：母子保健事業・児童福祉事業② 第8回：家族計画 第9回：女性のライフサイクルと保健① 第10回：女性のライフサイクルと保健② 第11回：女性のライフサイクルと保健③ 第12回：女性のライフサイクルと保健④ 第13回：女性特有疾患について① 第14回：女性特有疾患について② 第15回：まとめ（試験）						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	スライドを使用し授業を進めます。						
評価方法 Evaluation	授業前の小テスト及び課題（20%）、期末テスト（80%）で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy							
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	母子保健マニュアル 2010年 第7版 南山堂 ・北陸学院大学教授 高野 陽 編 ・自治医科大学名誉教授 柳川 洋 編 ・総合母子保健センター愛育病院院長 中林正雄 編 ・国立成育医療研究センター一部長 加藤忠明 編						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	大内 伸哉						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	女性が職業生活を送るうえで直面する様々な法的問題について知識を深めていくことを目的とする。教科書『雇用社会の25の疑問－労働法再入門－（第2版）』（弘文堂）の中から、女性の労働に関するテーマをピックアップして、グループ報告をしてもらい、みんなで意見を出しあいながら議論をする。
授業計画 Syllabus	以下の計画で講義を進める予定である（変更可能性あり） ① 講義の概要の説明 ② 導入的講義と報告割当 ③ 教科書の第25話 「ニートは、何が問題なのか」 ④ 教科書の第8話 「会社は、美人だけを採用してはダメなのであろうか」 ⑤ 第1回 小テストと解説 ⑥ 教科書の第4話 「女性社員は、夜にキャバクラでアルバイトをしてよいか」 ⑦ 教科書の第7話 「女子アナは、裏方業務への異動命令に従わなければならないのか」 ⑧ 教科書の第5話 「会社が違法な取引に手を染めていることを知ったときに、社員はどうすべきか」 ⑨ 第2回 小テストと解説 ⑩ 教科書の第22話 「日本の労働者はどうして過労死するほど働いてしまうのか」 ⑪ 教科書の第18話 「定年制は、年齢による差別といえるであろうか」 ⑫ 第3回 小テストと解説 ⑬ 教科書の第19話 「少子化は国の政策によって解決すべきことなのか」教科書の ⑭ 教科書の第9話 「会社は試用期間において、本当に雇用を試すことはできるか」 ⑮ 第4回 小テストと解説
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	最初の2回は講義で、3回目以降は、報告と小テストとなる。 2回目の講義の際に、グループと報告割当を決定するので、2回目の講義には必ず参加しなければならない。
評価方法 Evaluation	単位の取得要件は、自分に割当てられた報告を最低一回はすることである。小テストは4回実施する（教科書の持ち込みは可）。期末テストは実施しない。評価は、報告の内容、平常点、小テストの結果を、それぞれ30点、40点、30点の割合で考慮して行う。
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯メール、飲食は厳禁である。違反する者には退室を命じる。違反の程度が著しい者には、単位を認定しない。座席表どおりに着席していない者は欠席扱いとする（厳格に実施する）。
教科書 Textbook(s)	教科書を事前に購入して、予習しておくこと。 大内伸哉『雇用社会の25の疑問－労働法再入門－（第2版）』（弘文堂）
参考書 Reference(s)	大内伸哉『どこまでやったらクビになるか』（新潮新書） 大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』（ちくま新書） 大内伸哉『君たちが働き始める前に知っておいてほしいこと』（日本労務研究会）
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性と法						
担当教員	大内 伸哉						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	女性が職業生活を送るうえで直面する様々な法的問題について知識を深めていくことを目的とする。教科書『キーワードからみた労働法』の中から、女性の労働に関係するテーマをピックアップして、グループ報告をしてもらい、みんなで意見を出しあいながら議論をする。						
授業計画 Syllabus	以下の計画で講義を進める予定である（変更可能性あり） ① 講義の概要の説明 ② 導入的講義と報告割当 ③ 教科書の第1話・第2話 「最低賃金」, 「均衡待遇」 ④ 教科書の第4話 「偽装請負」 ⑤ 第1回 小テストと解説 ⑥ 教科書の第5話 「間接差別」 ⑦ 教科書の第6話 「高年齢者雇用確保措置」 ⑧ 教科書の第7話 「合理的配慮」 ⑨ 第2回 小テストと解説 ⑩ 教科書の第8話 「外国人研修」 ⑪ 教科書の第9話 「ワーク・ライフ・バランス」 ⑫ 第3回 小テストと解説 ⑬ 教科書の第11話・第12話 「サービス残業」, 「ホワイトカラー・エグゼンプション」 ⑭ 教科書の第13話 「メンタルヘルス」 ⑮ 第4回 小テストと解説						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	最初の2回は講義で、3回目以降は、報告と小テストとなる。 2回目の講義の際に、グループと報告割当を決定するので、2回目の講義には必ず参加しなければならない。						
評価方法 Evaluation	単位の取得要件は、自分に割当てられた報告を最低一回はすることである。小テストは4回実施する（教科書の持ち込みは可）。期末テストは実施しない。評価は、報告の内容、平常点、小テストの結果を、それぞれ30点、40点、30点の割合で考慮して行う。						
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯メール、飲食は厳禁である。違反する者には退室を命じる。違反の程度が著しい者には、単位を認定しない。座席表どおりに着席していない者は欠席扱いとする（厳格に実施する）。						
教科書 Textbook(s)	教科書を事前に購入して、予習しておくこと。 大内伸哉『キーワードからみた労働法』（日本法令）						
参考書 Reference(s)	大内伸哉『どこまでやったらクビになるか』（新潮新書） 大内伸哉『雇用はなぜ壊れたのか』（ちくま新書） 大内伸哉『君たちが働き始める前に知っておいてほしいこと』（日本労務研究会）						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	女性とメディア／女性論II						
担当教員	三宅 あつ子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>この授業は、女性である皆さんが、どうやって自分らしく生きるかということについて、多くの情報を取り入れ、それに基づいて考え、そして意見を交わす場です。</p> <p>これまでの女性の生き方の歴史を正確に知り、現在女性が抱えている問題を身近なところから検証しつつ、皆さん自身の未来へとつなげていきたいと思えます。</p> <p>絵画、小説、映画、テレビドラマなども援用し、講義だけではなく、グループ討議や発表も取り入れる予定です。</p> <p>女性論IIでは以下の点に焦点を当てて授業を進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディア、広告、絵画に表された女性</li> <li>2. おとぎばなし、ヒーローとジェンダー</li> <li>3. 子育てと母性</li> <li>4. 性の多様性</li> </ol>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 後期授業のオリエンテーション（授業の進め方、評価など）</p> <p>第2回 メディア・リテラシー ・ファッション雑誌</p> <p>第3回 広告に描かれる女性 ・見られる女性</p> <p>第4回 メディア・リテラシー ・ニュースと報道</p> <p>第5回 おとぎ話とジェンダー ・昔話とすりこみ</p> <p>第6回 憧れのヒーロー/ヒロイン ・子供は何を見て育つか</p> <p>第7回 まんが、アニメとジェンダー ・ディズニー・プリンセス</p> <p>第8回 絵画、芸術と女性 ・男性画家による女性像</p> <p>第9回 女性芸術家 ・偉大な女性文学者、偉大な女性画家はいるのか？</p> <p>第10回 愛する人と結ばれる！？という考え方 ・女性の生き方とメディア</p> <p>第11回 リプロダクティブ・ライツとメディア ・女性の体を自分でコントロールする ・妊娠を女性自身がコントロールする</p> <p>第12回 性の多様性 ・男と女という風に二分化ではない</p> <p>第13回 クイア・スタディーズとメディア ・異性愛偏重とは？</p> <p>第14回 メディアとジェンダー ・自分らしい生き方</p> <p>第15回 後期授業のまとめとテスト</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義とテキストの問題に対する意見を書いて考え、討論する。
評価方法 Evaluation	何回かの小レポート（30%）期末テスト（50%）平常点（20%）

履修上の注意 Requirements and policy	普段から、ジェンダー、女性の生き方などに興味を持って、授業にのぞんで下さい。 レポートは、期日に遅れた場合受け付けません。 テキストは必ず購入すること。（期末試験はテキスト持ち込み可です）
教科書 Textbook(s)	小平麻衣子・氷見直子著 『書いて考えるジェンダー・スタディーズ』 新水社 2006 ISBN 4-88385-086-2
参考書 Reference(s)	授業中に発表します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	主として英米、日本のさまざまな児童文学にふれ、物語や絵本を聴いたり、読んだりすることを通して、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性を考察し、児童文学とは何か、子どもにとってまた大人にとっても児童文学がどんな意味を持つのか、なぜ時代を超えて読みつがれていくのかについて考える。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：はじめに：児童文学とは &lt;子どもの本を楽しむ&gt;</p> <p>第2回：伝承の文学：神話、昔話、『グリム童話』</p> <p>第3回：絵本とは？ その歴史 絵本リスト配布</p> <p>第4回：絵本いろいろ 物語絵本</p> <p>第5回：絵本いろいろ 知識絵本</p> <p>第6回：しかけ絵本、赤ちゃん絵本</p> <p>第7回：幼年文学『クマのプーさん』を中心に</p> <p>第8回：家庭物語『秘密の花園』を中心に</p> <p>第9回：学校物語『チョコレート・ウォー』など</p> <p>第10回：冒険物語『ロビンソン・クルーソー』『宝島』、そして日常の冒険</p> <p>第11回：動物物語とイギリスのファンタジーⅠ『黒馬物語』『砂の妖精』など</p> <p>第12回：イギリスのファンタジーⅡ『ふしぎの国のアリス』など</p> <p>第13回：イギリスのファンタジーⅢ「指輪物語」「床下の小人たち」など</p> <p>第14回：アメリカのファンタジー 「ゲド戦記」、近未来の物語</p> <p>第15回：まとめ、質疑応答と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	テキストおよび自筆のノートを持ち込むことのできる試験60%、授業時の最後に提出してもらったミニレポートを含む平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	児童文学に関心をもっている人を対象とします。 子どもの本のある図書館や文庫、書店などで、子どもの本とふれる機会をもってほしい。 実授業数の三分の二以上欠席すると、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	三宅興子・多田昌美共著『児童文学12の扉をひらく』翰林書房
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	児童文学						
担当教員	松下 宏子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	主として英米、日本のさまざまな児童文学にふれ、物語や絵本を聴いたり、読んだりすることを通して、ことばと絵の持つ力、想像力の重要性を考察し、児童文学とは何か、子どもにとってまた大人にとっても児童文学がどんな意味を持つのか、なぜ時代を超えて読みつがれていくのかについて考える。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：はじめに：児童文学とは &lt;子どもの本を楽しむ&gt;</p> <p>第2回：伝承の文学：神話、昔話、『グリム童話』</p> <p>第3回：絵本とは？ その歴史 絵本リスト配布</p> <p>第4回：絵本いろいろ 物語絵本</p> <p>第5回：絵本いろいろ 知識絵本</p> <p>第6回：しかけ絵本、赤ちゃん絵本</p> <p>第7回：幼年文学『クマのプーさん』を中心に</p> <p>第8回：家庭物語『秘密の花園』を中心に</p> <p>第9回：学校物語『チョコレート・ウォー』など</p> <p>第10回：冒険物語『ロビンソン・クルーソー』『宝島』、そして日常の冒険</p> <p>第11回：動物物語とイギリスのファンタジーⅠ『黒馬物語』『砂の妖精』など</p> <p>第12回：イギリスのファンタジーⅡ『ふしぎの国のアリス』など</p> <p>第13回：イギリスのファンタジーⅢ「指輪物語」「床下の小人たち」など</p> <p>第14回：アメリカのファンタジー 「ゲド戦記」、近未来の物語</p> <p>第15回：まとめ、質疑応答と試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式
評価方法 Evaluation	テキストおよび自筆のノートを持ち込むことのできる試験60%、授業時の最後に提出してもらったミニレポートを含む平常点40%
履修上の注意 Requirements and policy	児童文学に関心をもっている人を対象とします。 子どもの本のある図書館や文庫、書店などで、子どもの本とふれる機会をもってほしい。 実授業数の三分の二以上欠席すると、受講資格を失います。
教科書 Textbook(s)	三宅興子・多田昌美共著『児童文学12の扉をひらく』翰林書房
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	数学入門／暮らしと数学						
担当教員	津久井 茂樹						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>数学は中学・高校の科目として仕方なくするものと捉えている人や、多くの学問や科学技術の発展に必要な基礎と捉えている人もいるかもしれません。しかし、多くの人間が数学そのものの魅力に引き付けられてきたからこそ発展してきたのが、数学という学問です。</p> <p>数とは何かという根源的な問いから説き起こし、数学は文明の要素であることなど数学に近づいてその素晴らしさを学習し、暮らしを数学的に見た時の楽しさを実感することを目標とします。</p> <p>授業では、暮らしの中で使われている数学を、広く深く掘り下げて、楽しく学びます。また、受講生の興味のある内容を中心に学ぶとともに、それに関連したSPI問題（非言語）をとりあげ、就職試験で必要な数学の知識を身につけることもできます。</p> <p>就職活動前はもちろん、就職活動後でも楽しめる数学を学びます。</p> <p>高校で数学を履修していなくても大丈夫です。数学が好きになる講義を目指します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：オリエンテーション、アンケート、暮らしの中の数学の例</p> <p>第2回：速さと時間、距離の関係</p> <p>第3回：暮らしと図形、三角・四角</p> <p>第4回：角度、斜度、</p> <p>第5回：図形の長ささと面積</p> <p>第7回：方程式とグラフ</p> <p>第8回：簡単な微分と積分</p> <p>第9回：場合の数と確率</p> <p>第10回：よくわかる三角関数</p> <p>第11回：不等式とグラフ</p> <p>第12回：生活の中のn進法</p> <p>第13回：簡単な数列、等差数列</p> <p>第14回：等比数列、いろいろな数列</p> <p>第15回：定期試験</p> <p>第16回：総復習</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type							
評価方法 Evaluation	<p>初回のアンケートの内容も授業内容に盛り込みます。</p> <p>興味のある内容を学ぶとともに、就職試験で必要なSPI問題を解きこなします。</p> <p>パワーポイントを使った授業で視覚的な理解を助けるとともに、講義資料を配付して理解度を深めます。</p> <p>毎回小テストを実施します。理由無く後日提出した小テストの評価は減じます。</p>						
履修上の注意 Requirements and policy	初回の授業で指定する教科書または問題集を持参してください。						
教科書 Textbook(s)	未定（初回の授業で使用する教科書、問題集を連絡します）。						
参考書 Reference(s)	<p>特に購入の必要はありませんが、図書館等で参考にしてください。</p> <p>岡部恒治著 『数学はこんなに面白い』（日本経済新聞社）</p> <p>エハルト・ペーレンツ 『5分でたのしむ数学50話』（岩波書店）</p> <p>桑田孝泰著 『微分積分』（朝倉書店）</p> <p>小林道正著 『微分積分の基本と仕組み』（秀和システム）</p>						

備考 Remarks	欠席等の連絡は事前に下記まで。 E-mail : tsukui@chemeng.osakafu-u.ac.jp 連絡の無い欠席や事後の小テストの提出は減点になります。
---------------	---

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	スポーツ文化史						
担当教員	和田 浩一						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	前半は西洋的なスポーツと日本的なスポーツを、主に歴史的な観点から比較考察する。具体的には、各種目の「技・技術」「ルール・マナー」「施設・用具」の変遷をたどりながら、日本的なスポーツ文化の特徴を考える。後半は古代・近代オリンピックを概観し、ピエール・ド・クーベルタンと嘉納治五郎の教育思想について論じる。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、スポーツの概念</li> <li>2. 野球とベースボール 1</li> <li>3. 野球とベースボール 2</li> <li>4. 大相撲のシステム 1</li> <li>5. 大相撲のシステム 2</li> <li>6. ボクシングと柔道</li> <li>7. フェンシングと剣道</li> <li>8. 蹴鞠とサッカー 1</li> <li>9. 古代オリンピック 1</li> <li>10. 古代オリンピック 2</li> <li>11. 近代オリンピック 1</li> <li>12. 近代オリンピック 2</li> <li>13. クーベルタンのオリンピズム</li> <li>14. 嘉納治五郎と日本のオリンピック運動</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	<a href="http://homepage3.nifty.com/wadaco/index.html">http://homepage3.nifty.com/wadaco/index.html</a>
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	試験（60分、論述）：80%、レポート・発言の点数：20%。なお、5回以上の欠席者は受験資格なしとする。
履修上の注意 Requirements and policy	携帯電話の操作、私語、居眠りを禁止する。
教科書 Textbook(s)	使用しない。参考URLからあらかじめ配付資料をダウンロード・印刷して、必ず予習しておくこと。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	生物学入門／暮らしと科学I／暮らしの中の生物学						
担当教員	吉野 健一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【暮らしの中のトピックスから生物学を学ぶ】 BSE、クローン生物、遺伝子組み換え食品、ウイルスなど、ニュースでよく見聞きする言葉だけど、詳しいことはわからない？ という人は多いと思います。このような生物学や医学に関連する暮らしの中のトピックスを取り上げ、科学的に解説します。</p> <p>【到達目標】 ニュースで取り上げられる科学的に根拠のない無責任な情報に惑わされることを防ぐための生物学的な基礎知識を習得し、理解を深めること。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：がんの生物学 ①がんとは何か 第2回：がんの生物学 ②乳がんの特徴 第3回：プリオン病 ①プリオン病とは何か 第4回：プリオン病 ②プリオン病発病のしくみ 第5回：プリオン病 ③プリオン病の歴史 第6回：ウイルスと細菌 ①さまざまな感染症 第7回：ウイルスと細菌 ②ワクチンとは何か 第8回：有性生殖と無性生殖 第9回：ヒトの性決定システム 第10回：性決定システムの多様性 第11回：染色体 第12回：ヒトの胚発生 第13回：遺伝子組み換え作物とは何か 第14回：遺伝子組み換え作物の有用性と問題点 第15回：クローン生物と生物多様性</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義。プロジェクターを使って解説します。						
評価方法 Evaluation	講義ごとに提出する小レポート（小テスト&ノート形式）60% 期末レポート40%。 単位の取得には9回以上の出席と期末レポートの提出が必須。 講義ごとに提出する小レポートが0点の場合は欠席扱いとします。						
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 履修条件 生物学や医学、健康に興味をもち、積極的に授業に参加する学生を対象とします。</p> <p>(2) 授業外における学習方法 新聞、ニュースで報道される生物学、医学関係のニュースに関心をもち、報道された内容を正しく理解できるよう調査・学習することが望ましい。</p> <p>(3) その他 私語など授業を妨害する行為、他の受講生の聴講を妨げる行為は厳禁。講義中の迷惑行為が認められた場合は欠席扱いとします。 13:40以降の入室および14:10以前の退室は欠席扱いとします。 小レポートおよび期末レポートにおいて、代筆などの不正行為や類似回答、他の文献からのコピー&amp;ペーストが認められた場合は単位を認定しません。</p>						
教科書 Textbook(s)	なし。講義資料としてのプリントを配布します。						
参考書 Reference(s)	生物学の基礎知識、都河明子著、丸善 初歩からの生物学、鈴木範男著、三共出版						

備考 Remarks	
---------------	--

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IIA（ローマの歴史と文学）						
担当教員	山田 道夫						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	西洋古典学（Classics）とは、古代ギリシア人およびローマ人が創造し、二千年以上にわたって西欧の歴史と文化の規範ないし基盤となってきた学問や文化を研究するもので、ギリシア語の古典文献を主とするギリシア研究とラテン語の古典文献を主とするローマ研究に分かれる。この「西洋古典入門IIA」では古代ローマの歴史と文学の骨子を学ぶ。						
授業計画 Syllabus	第1回：すべての道はローマへ通ず。古代ローマのイメージ 第2回：ローマは一日にしてならず。ローマ史概観(1) カエサル（シーザー）とクレオパトラ 第3回：ローマ史概観(2) ローマの建国神話—アエネーアースとロムルス 第4回：ローマ史概観(3) ポエニ戦争、カルタゴとの闘争、地中海の覇者 第5回：ローマ史概観(4) 内乱の前一世紀、キケロとカエサル 第6回：ローマ史概観(5) 神帝アウグストゥスとローマ帝国 第7回：ローマ史小テスト、ラテン文学史の時代区分 第8回：カトウツルスのカルミナ — 憎んでいながら、なお恋しとはどうしたわけか？ 第9回：ウェルギリウス『アエネーイス』— 建国の英雄アエネーアース、ディードーの悲恋、男はつらい 第10回：オウィディウス『変身物語』(1) — 愛と変身のギリシア・ローマ神話 第11回：『変身物語』(2) 第12回：『変身物語』(3) 第13回：『変身物語』(4) 第14回：『変身物語』(5) 第15回：まとめと展望、期末テスト						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義。前半は教科書、後半はプリントを使って講義する。						
評価方法 Evaluation	授業への参加度30%、小テスト20%、期末テスト50%						
履修上の注意 Requirements and policy	ギリシア・ローマ神話の世界、古代ローマやその文化的所産について知りたいという知的好奇心をもって受講すること。						
教科書 Textbook(s)	『ローマの歴史』（中公文庫）改版 モンタネッリ著、藤沢道郎訳 中央公論社 ISBN4-12-202601-6						
参考書 Reference(s)	『ラテン文学を学ぶ人のために』 松本仁助・岡道男・中務哲郎編 世界思想社 ISBN4-7907-0432-7						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋古典入門IIB（ラテン語）						
担当教員	山田 道夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	ラテン語は古代ローマ人の言語であるが、長く西欧の学問と文化の骨格を担う言語として用いられてきた。今日でもパチカンの公用語である。英米語の語彙の半分はラテン語からできているだけでなく、フランス語・イタリア語・スペイン語などは民衆語化したラテン語の直接の子孫である。この授業では、西欧の歴史や文学に興味をもつ人のみならず、英語やフランス語、さらには言語そのものを深く知りたいと望む人が、ラテン語とはどのような言語かを知って役立てることができるように、基本的な文法と簡単な文章を学ぶ。						
授業計画 Syllabus	第1回：ラテン語とはどのような言語か？ 第2回：文字と発音(1) 第3回：文字と発音(2) 第4回：名詞の変化— 第1変化名詞と第2変化名詞 第5回：形容詞の変化— 第1・2変化形容詞 第6回：動詞の変化(1)— 直説法・能動相・現在人称変化、動詞の4種類と不定法 第7回：動詞の変化(2)— 未完了過去と未来 第8回：動詞の変化(3)— SUMとPOSSUM 第9回：前置詞、副詞、接続詞 第10回：動詞の変化(3)— 受動相の現在・未完了過去・未来 第11回：第3変化の名詞と形容詞 第12回：簡単な文章を読む(1) 第13回：簡単な文章を読む(2) 第14回：簡単な文章を読む(3) 第15回：まとめと展望、テスト						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	教科書とプリントを用いながら講義する。受講者が発音から文法事項・変化のひとつひとつをきちんと理解し記憶することを前提に、ラテン文の訳読を適宜宿題として課す。						
評価方法 Evaluation	授業への積極的参加、課題への取り組みなどの平常点50%、筆記テスト50%で評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	講義をよく聴き、自分で教科書を読んで、理解すべきことを理解し、覚えるべきことを覚えようとする人でないと履修すべきではない。最初の授業までに教科書を入手して持参すること。						
教科書 Textbook(s)	『はじめてのラテン語』（講談社現代新書）大西英文著 講談社 ISBN4-06-149353-1						
参考書 Reference(s)	授業時に紹介する。						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の歴史／西洋史I						
担当教員	尾崎 秀夫						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	ヨーロッパ史概説。 ヨーロッパの近世から現代までの歴史を概観する。ヨーロッパの歴史についての常識を身につけてもらうことを目的とする。高校の時の世界史のくり返しにならないよう、あまり細かいことにとらわれず、それぞれの時代についていくつかの問題を取り上げて講義する。パワー・ポイントを使い、写真や地図などを参照しながら講義を進める予定である。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ルネサンスと宗教改革</li> <li>2. 大航海時代</li> <li>3. 絶対主義（1）</li> <li>4. 絶対主義（2）</li> <li>5. イギリスの革命</li> <li>6. フランス革命</li> <li>7. ナポレオン</li> <li>8. 産業革命</li> <li>9. 自由主義と国民主義</li> <li>10. 帝国主義の時代</li> <li>11. 第1次世界大戦</li> <li>12. 第2次世界大戦</li> <li>13. 冷戦</li> <li>14. 20世紀後半の諸問題</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式。
評価方法 Evaluation	平常点（平常点、平常試験）で評価する。平常点30%、平常試験70%。
履修上の注意 Requirements and policy	大学生としての良識に従って受講すること。とくに私語は慎むこと。1時間目なので遅刻しないよう努めること。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	高校のときの世界史の歴史地図や年表があれば持参すること。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	西洋思想史						
担当教員	木下 昌巳						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業では、西洋の倫理思想史を学びます。古代ギリシアの昔から哲学者たちは、「よい・悪い」、「正義・不正」ということの意味を徹底的に探求し、われわれ人間がどのように生きればよいのかということをあきらかにしようとしてきました。この授業では、過去の西洋の主だった哲学者たちの思想をできるだけ平易に解説して、ただ人名や用語を覚えるのではなく、われわれが自分の生き方を考える際の糧となるような知識を身につけることを目指します。
授業計画 Syllabus	01 西洋倫理思想史の概観 02 ソフィストとレトリック 03 ソクラテスの問い——徳性とは何か？ 04 ソクラテスの裁判 05 プラトンのエロス論 06 プラトンの理想国家 07 アリストテレスの徳論 08 エピクロスの快楽主義 09 ヒュームと「共感」の理論 10 カントの義務論① 11 カントの義務論② 12 功利主義①——ベンサム思想 13 功利主義②——ミルの思想 14 ニーチェの超人思想 15 まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式でおこないます。
評価方法 Evaluation	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	ただ授業に出て、ノートを取るだけではなく、授業中の積極的な発言を希望します。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。（プリントは出席者のみに配布します。）
参考書 Reference(s)	内山勝利・中川純夫編著『西洋哲学史 古代・中世編 フィロソフィアの源流と伝統』（ミネルヴァ書房、1996） ISBN 4623026639 宗像恵・中岡成文編著『西洋哲学史 近代編 科学の形成と近代思想の展開』（ミネルヴァ書房、1995） ISBN 4623025275
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	世界の文学						
担当教員	武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	長編小説にはたいてい恋愛が含まれる。授業では独特な愛の形を提示して世界に衝撃を与えた古典を学ぶ。身近な小説・漫画・アニメで氾濫する多彩な愛を分類する能力が身につくはずである。
授業計画 Syllabus	<p>順番は前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ロンゴス『ダフニスとクロエ』</li> <li>3. アペラールとエロイズの往復書簡</li> <li>4. カサノヴァ『回想録』</li> <li>5. カサノヴァとドン・ファン</li> <li>6. ダ・ポンテ『ドン・ジョヴァンニ』</li> <li>7. サド『ソドム百二十日』</li> <li>8. マゾッホ『毛皮を着たヴィーナス』</li> <li>9. ゲーテ『若きヴェルターの悩み』</li> <li>10. ヴァーグナー『トリスタンとイゾルデ』</li> <li>11. トーマス・マン『ヴェニスに死す』</li> <li>12. コクトー『恐るべき子供たち』</li> <li>13. ナボコフ『ロリータ』</li> <li>14. ロリータとの逃避行とその果て</li> <li>15. 補足と試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	感想・意見（10回程度）60%、試験40% 各テーマごとに授業の終わりに、何を感じ、何を考えたかを短く書いてもらう。
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を必須とする。 単に出席するだけでなく、考えながら聞いて感想・意見を述べなければ合格点は取れない。 私語厳禁。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	地球環境と人間						
担当教員	馬場 恒子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>産業革命以降の急速な工業化は、生活に豊かさと利便性をもたらしたが、様々な公害や大気汚染などの環境悪化をもたらした。そして、現代では事業活動や消費生活の拡大により、人口問題と相俟って、人間社会の営みが、地球温暖化、オゾン層破壊、水資源やエネルギー問題、森林破壊などのグローバルな環境問題を引き起こしている。授業では、生活環境も含めた地球環境問題を環境衛生学的に理解し、人間が短期間に傷つけた地球環境に対して今私達は何をなすべきかを考える。</p> <p>到達目標</p> <p>①生活環境も含めた地球環境問題に関心を持つ。 ②生活環境も含めた地球環境の現状を理解する。 ③自分は地球環境問題の加害者であるという認識を持った上で、自分は何をなすべきかを考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>① I 地球環境 A エコロジー ② I 地球環境 B 生態系の中の人間 ③ II 地球環境の変化－大気圏－ A 大気の定常状態 ④ II 地球環境の変化－大気圏－ B 大気汚染 1. スモッグ ⑤ II 地球環境の変化－大気圏－ B 大気汚染 2. 地球温暖化 ⑥ II 地球環境の変化－大気圏－ B 大気汚染 3. 酸性雨 4. オゾン層破壊 ⑦ I 章、II 章のまとめとテスト ⑧ III 地球環境の変化－水圏－ A 人間生活と水の関わり ⑨ III 地球環境の変化－水圏－ B 水質汚濁 ⑩ III 地球環境の変化－水圏－ C 水の浄化 ⑪ IV 地球環境を破壊する廃棄物 1. 排出、処分の状況 ⑫ IV 地球環境を破壊する廃棄物 2. 処理・処分法 ⑬ IV 地球環境を破壊する廃棄物 3. 排出量の抑制 ⑭ V 地球環境との共生 ⑮ III 章、IV 章、V 章のまとめとテスト</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	100点満点のテスト(2回)：70% 環境問題に関するレポート：20% 5点満点の小テスト：10%
履修上の注意 Requirements and policy	<p>授業の始めと終わりの挨拶 授業中(初めの挨拶から終わりの挨拶まで)の私語厳禁 テストは主に記述式で行うので、授業内容を理解する レポートの資料として今年度の環境問題に関する新聞記事を集める</p>
教科書 Textbook(s)	新版 やさしい環境科学 保田仁資 化学同人 ISBN978-4-7598-0923-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	インターネットやケータイの普及に伴い、コミュニケーション不全の若者が増えたといわれます。しかし、これから社会人として、自分の考えをきちんと相手に伝え、また相手の考えを十分聴いて、お互いの意見を調整してゆくコミュニケーション技術は不可欠なものです。授業では発音・発声の基礎から、滑舌、ニュースの読みなどを体験しながら、「自己紹介」、「自分の得意分野のプレゼン」、「私の宝物」、「私のおススメの一冊」、「10年後の自分」を語ります。合わせて就職に役立つ「面接」に備えます。
授業計画 Syllabus	①発音・発声の基礎 ②滑舌 ③ニュースを読む ④ナレーションに挑戦 ⑤自己紹介に挑戦① ⑥自己紹介に挑戦② ⑦自分の得意分野をプレゼンする① ⑧自分の得意分野をプレゼンする② ⑨敬語の使い方 ⑩私の宝物 ⑪私のおススメの一冊 ⑫電話での対応と接遇 ⑬10年後の私 ⑭就職の面接に備える ⑮話し方が上達するノウハウ
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	人前で声を出し、滑舌、プレゼンする能力を養います。 また、人の態度や表現を読み解く訓練もします。
評価方法 Evaluation	授業中に声を出させて評価し、次なる目標を設定します。人前で話す練習をし、その都度評価します。出席とプレゼン能力、スピーチの内容を評価します。出席重視。私語は退席。比率は出席60%、パフォーマンス20%、発表20%です。
履修上の注意 Requirements and policy	意欲のある学生、将来アナウンサーやCAを目指す学生など、限定30名以内の小クラスとします。
教科書 Textbook(s)	「日本語表現法」佐藤誠著（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学A						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「哲学」とは、私たちが日常だっている常識を疑い、世界と人間に対する根源的な認識を獲得しようとする学問です。私たちが生きている世界において、本当の意味で「ある」と言うことができるのは何か。人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きるべきなのか。このような問いに取り組み、究極的な解答を得ようとするのが「哲学」です。この哲学Aの授業では、西洋においてまさに「哲学」という学問が成立した古代ギリシアの思想家たちを中心に上げ、彼らの問題意識と議論を紹介しながら、「哲学」という学問の問題意識と主な哲学者たちの思想を理解することを目指します。
授業計画 Syllabus	01 「哲学」とは何か？ 02 「哲学」の始まり——古代ギリシアと哲学 03 世界の始源を求めて(1)——ミレトス派の人々（前） 04 世界の始源を求めて(2)——ミレトス派の人々（後） 05 論理と世界(1)——エレア派の思想（前） 06 論理と世界(2)——エレア派の思想（後） 07 原子論の出現 レウキッポスとデモクリトス 08 ノモスとピュシス 09 ソクラテスの生き方(1) 10 ソクラテスの生き方(2) 11 プラトンの思想(1) 12 プラトンの思想(2) 13 「万学の祖」アリストテレス(1) 14 「万学の祖」アリストテレス(2) 15 まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式でおこないます。
評価方法 Evaluation	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	哲学は日常生活のなかに存在する目の前の事柄に直接的に役立つという学問ではないかもしれませんが、しかし、大学という自由な環境の中でのみ学ぶことのできる学問であり、哲学を学ぶことは、本当の意味での視野の広さ、ものを考える力というものを身につけるのにおおいに貢献すると信じます。自分が生きている世界の根本的なあり方について、じっくり考えてみたいという学生の受講を希望します。
教科書 Textbook(s)	必要なプリントを授業で配布します。（プリントは出席者にのみ配布します。）
参考書 Reference(s)	内山勝利他著『哲学の歴史（第1巻（古代1））』（中央公論新社、ISBN 9784124035186）
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学B						
担当教員	木下 昌巳						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	この授業は、前期の哲学Aに引き続き、「哲学」という学問がいかなる問題を考える学問なのか、そして過去の哲学者たちが「哲学」の問題に対して、どのような考えを展開してきたのか、ということの理解を目指します。哲学Aでは、主に古代ギリシアの思想家たちを取り上げるのに対して、この哲学Bでは、近代哲学の祖とされるデカルトから出発し、近世から現代に至るまで、西洋の哲学者たちがいかなる問題に取り組み、いかなる解答を提示してきたのかということを紹介し、その内容を概説します。
授業計画 Syllabus	01 「哲学」とはなにか？ 02 近代西洋哲学の流れの概観 03 デカルトの哲学(1)——「われ思うゆえにわれあり」 04 デカルトの哲学(2)——精神と物質 05 ニュートンの力学的自然観 06 イギリス経験論(1)——ロック、パークリ、ヒューム 07 イギリス経験論(2)——帰納と演繹 08 イギリス経験論(3)——知識と経験 09 カントの批判哲学(1)——『純粹理性批判』について 10 カントの批判哲学(2)——知性の限界について 11 フランス啓蒙思想——「啓蒙」とは何か？ 12 ニーチェの思想——善悪の彼岸 13 20世紀の哲学(1)——分析哲学の誕生 14 20世紀の哲学(2)——科学と哲学 15 まとめとテスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式でおこないます。
評価方法 Evaluation	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	内容を理解するためには、「哲学A」を履修しておくことが望ましいですが、関心があれば、「哲学B」だけを履修することも可能です。「哲学B」のみの履修者も理解ができるよう配慮して授業を進めます。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	哲学入門						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「哲学」とは、私たちが日常抱えている常識を突き抜け、世界と人間に対する根源的かつ全体的な認識を獲得しようとする学問です。世界は究極的には何からできているのか？人間は何をどこまで知ることができるのか。そして、その世界のなかで、私たちはどのように生きていけばよいのか—このような問いに取り組み、解答を得ようとするのが「哲学」です。この授業では、西洋の古代から近代までの哲学者の思想を取り上げ、彼らの問題意識と議論を紹介しながら、「哲学」という学問の問題意識と主な哲学者たちの思想を理解することを目指します。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>01 「哲学」とは何か？—「知を愛する」という営み 02 「哲学」の始まり—古代ギリシャと哲学 03 世界の始源を求めて—ミレトス派の人々 04 アキレスと亀—エレア派の思想 05 哲学と弁論術—「ソフィスト」の登場 06 「よく生きる」ために—ソクラテスの問い 07 理想の国家とは？—プラトンの理想国家 08 「万学の祖」アリストテレス 09 幸福とは何か？—エピクロスの快樂論 10 大陸合理論の哲学—デカルトの企て 11 イギリス経験論の哲学—経験と知識 12 カントの倫理思想—義務論と経験論 13 カントの批判哲学—知ることができることと知ることができないこと 14 「善悪の彼岸」—ニーチェの道徳批判 15 まとめとテスト</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式でおこないます。						
評価方法 Evaluation	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。						
履修上の注意 Requirements and policy	哲学は、日常生活のなかで遭遇する目の前の事柄に直接的に役立つという学問ではないかもしれませんが。しかし、大学という自由な環境の中でのみ学ぶことのできる学問です。哲学を学ぶことは、本当の意味での視野の広さ、ものを考える力というものを身につけるのにおおいに貢献すると信じます。自分が生きている世界の根本的なあり方について、じっくり考えてみたいという学生の受講を希望します。						
教科書 Textbook(s)	必要なプリントを授業で配布します。（プリントは出席者にのみ配布します。）						
参考書 Reference(s)	<p>・中央公論新社『哲学の歴史』全13巻（2007-2008） 現在、日本で出版されているもっとも詳しい哲学史です。内容は細かいですが、授業で取り上げた哲学者とその思想について、さまざまな知識が得られます。</p>						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺しその対立を避けようとし、その場合、意見の対立は異常事態として捉えられます。</p> <p>「人間は皆異なるものだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、その違いをどのように克服していくかに力が注がれます。</p> <p>ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が判断するスタイルのコミュニケーションです。</p> <p>ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、説得力のアップを図ります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベートの全体像 ディベートの必要性とデメリット、ディベートのルール</p> <p>②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する</p> <p>③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む</p> <p>④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施</p> <p>⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開</p> <p>⑥民主主義とディベートの関連について考える レスター・サローの資本主義と民主主義を読む</p> <p>⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク</p> <p>⑧ディベート実践2 ショートディベート演習（その1）</p> <p>⑨ディベート実践3 ショートディベート演習（その2）</p> <p>⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか</p> <p>⑪ディベート2 ディベート演習（その1）</p> <p>⑫ディベート3 ディベート演習（その2）</p> <p>⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備</p> <p>⑭サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1）</p> <p>⑮サッカーディベートⅢ サッカーディベート演習（その2）・まとめ</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず、授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、レポート【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2~3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。</p>
授業計画 Syllabus	<p>①ディベート概説 立論・尋問・反駁のポイント ②立論の作成 問題点を明確に主張する ③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける ④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備 ⑤ディベート実践2 ショートディベート演習（その1） ⑥ディベート実践3 ショートディベート演習（その2） ⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える ⑧ディベート2 ディベート演習（その1） ⑨ディベート3 ディベート演習（その2） ⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か ⑪サッカーディベート2 サッカーディベート演習（その1） ⑫サッカーディベート3 サッカーディベート演習（その2） ⑬ロングディベート1 ロングディベート演習（その1） ⑭ロングディベート2 ロングディベート演習（その2）・まとめ ⑮ディベート審査 モデルディベートをジャッジする</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習中心です。
評価方法 Evaluation	筆記試験は実施せず授業態度（欠席・遅刻は減点します）【30%】、演習評価【40%】、客観的判断力評価【30%】で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	演習中心の授業なので、休まずに出席すること。

教科書 Textbook (s)	教科書は使用せず、プリントを配付します。
参考書 Reference (s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	東洋の思想						
担当教員	畑 忍						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「故事成語（こじせいご）」とは、昔から伝えられてきた教訓話が慣用句化したもので、我々が日常、無意識のうちに使っている「矛盾」や「完璧」などの言葉が、まさにこの「故事成語」である。</p> <p>「故事成語」には、古代中国人の苦しみや、葛藤の記録、あるいは人生という戦いの場においてたどり着いた境地など、人生哲学や美意識が内包されており、まさに中国人の思考の縮図と言えるだけでなく、現代を生きる我々にとっても共感の出来る考え方やものの見方が含まれており、より良き戒めとなる言葉でもある。</p> <p>本講義では、中国人のみならず日本人にとってもなじみ深い「故事成語」を中心に、そこに込められた人生哲学や美意識を読み解きつつ、古代中国人の思考様式を学んでいくだけでなく、「故事成語」が定着していくまでの文化的背景についても学んでいく。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回 ガイダンス 「故事成語」とは何か</p> <p>第2回 「矛盾」を読み直す（上）</p> <p>第3回 「矛盾」を読み直す（下）</p> <p>第4回 太公望呂尚にまつわる「故事成語」 『史記』篇（1）</p> <p>第5回 「臥薪嘗胆」と呉越の争い（上） 『史記』篇（2）</p> <p>第6回 「臥薪嘗胆」と呉越の争い（下） 『史記』篇（3）</p> <p>第7回 「四面楚歌」：項羽と劉邦にまつわる「故事成語」 『史記』篇（4）</p> <p>第8回 「背水の陣」：韓信にまつわる「故事成語」 『史記』篇（5）</p> <p>第9回 『三国志』の英雄にまつわる「故事成語」</p> <p>第10回 「故事成語」ができるまで（1） 「杞憂」を例に</p> <p>第11回 「故事成語」ができるまで（2） 「出藍の誉れ」を例に</p> <p>第12回 「故事成語」ができるまで（3） 「朝三暮四」を例に</p> <p>第13回 「故事成語」ができるまで（4） 「塞翁が馬」を例に</p> <p>第14回 日本文化への影響</p> <p>第15回 「故事成語」のまとめと試験</p>						
参照URL Referance URL(s)							
授業方法 Class type	上記のスケジュールに基づき講義を行う。						
評価方法 Evaluation	学期末に実施する筆記試験（50%）及び不定期に実施する小テスト、授業中の発言など（50%）から総合的に評価する。						
履修上の注意 Requirements and policy	配布したプリントは必ず持参すること。						
教科書 Textbook(s)							
参考書 Reference(s)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松本肇『春秋戦国の処世術 中国古典に学ぶ「逆転の寓話」』（講談社現代新書）</li> <li>・ 合山究『故事成語』（講談社現代新書）</li> <li>・ 湯浅邦弘『故事成語の誕生と変容』（角川選書）</li> </ul>						
備考 Remarks	興味のあることや、知りたいことがあれば、遠慮なく申し出てください。適宜、授業の中に取り入れていきます。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化A						
担当教員	川口 陽子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	「フランスと日本の文化を比較する」 フランス文化やフランス人のものの見方について色々な角度から接近し、 理解を深めていくことが狙いです。 また同時に、日本の文化や日本人のものの見方に関して調査し、 フランスの場合と比較してもらいます。 その中で日本を改めて見直す機会も持たれることを希望します。
授業計画 Syllabus	第1回 はじめに：アンケート 第2回 フランスの地理 第3回 日本の地理 第4回 フランスの歴史 1 第5回 日本の歴史 1 第6回 フランスの歴史 2 第7回 日本の歴史 2 第8回 両国の歴史を比較する 第9回 フランスの祝祭日 第10回 日本の祝祭日 第11回 フランスにおける家族のありかた 第12回 日本における家族のありかた 第13回 フランスで働く外国人労働者 第14回 日本で働く外国人労働者 第15回 多文化共生社会について考える
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義と演習を交互に行います。
評価方法 Evaluation	平常点50%（小レポート30%、授業中発表等20%）、学期末レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	平常点も重視します。 欠席5回で失格となります。
教科書 Textbook(s)	必要に応じてプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	必要に応じて配布プリントに記載します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日仏比較文化B						
担当教員	川口 陽子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>「フランスと日本の文化を比較する」 日仏比較文化Aから引き続いて、フランスと日本の比較を通して、日仏両方の理解を深めることが狙いです。 履修者は各自、日仏比較に関わるテーマを一つ選び、授業中に発表し、最後にレポートとしてまとめることを目指します。 発表者以外の出席者も全員、コメントを必ず求められますので、しっかりと発表を聞いて、自分の考えを言葉で表現して下さい。 発表と並行して、日仏の社会・文化の比較や、日本から見たフランス、フランスから見た日本についての考察も深めていきます。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 はじめに：発表日程決定 第2回 発表：日本から見たフランス 第3回 フランスの学校制度 第4回 日本の学校制度 第5回 両国の学校制度を比較する 第6回 発表＋討論（1） 第7回 発表＋討論（2） 第8回 発表＋討論（3） 第9回 発表＋討論（4） 第10回 発表＋討論（5） 第11回 発表＋討論（6） 第12回 発表＋討論（7） 第13回 発表＋討論（8） 第14回 発表＋討論（9） 第15回 フランスから見た日本</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習を中心に、講義の時間も取りながら進めます。
評価方法 Evaluation	平常点50%（授業中発表25%、小レポート等25%、）、学期末レポート50%
履修上の注意 Requirements and policy	平常点も重視します。 欠席5回で失格となります。
教科書 Textbook(s)	必要に応じてプリントを配布します。
参考書 Reference(s)	必要に応じて配布プリントに記載します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習も行います。
授業計画 Syllabus	第1回：イントロダクション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト① 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章(3) 第9回：達成度確認テスト② 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト③ 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加・プレゼンテーションなどの平常点50% 達成度確認テスト(3回) 50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔 ひつじ書房 ISBN-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50% 達成度テスト(3回)50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔(2003) ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	伝わる文章／日本語表現法						
担当教員	牧野 由紀子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。具体的なシチュエーションを想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、グループワークで実際に文章を作成します。また、それを発表することで、プレゼンテーションの練習もおこないます。
授業計画 Syllabus	第1回：オリエンテーション 第2回：メールの書き方(1) 第3回：メールの書き方(2) 第4回：メールの書き方(3) 第5回：達成度確認テスト(1) 第6回：さまざまな文章表現(1) 第7回：さまざまな文章表現(2) 第8回：さまざまな文章表現(3) 第9回：達成度確認テスト(2) 第10回：アカデミック・ライティング(1) 第11回：アカデミック・ライティング(2) 第12回：アカデミック・ライティング(3) 第13回：アカデミック・ライティング(4) 第14回：達成度確認テスト(3) 第15回：まとめと講評
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	グループワークで課題に取り組み、それを簡単に発表してもらいます。
評価方法 Evaluation	グループワークへの参加やプレゼンテーションなどの平常点50%・達成度テスト（3回）50%
履修上の注意 Requirements and policy	各回、グループワークとプレゼンテーションが中心となるので、それらの作業に積極的に参加することが評価の前提です。 3回欠席すると単位を認定しません。
教科書 Textbook(s)	『日本語を書くトレーニング』野田尚史・森口稔（2003）ひつじ書房 ISBN4-89476-177-7
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の歴史／日本史I						
担当教員	内藤 英恵						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	日本近現代史を中心として文化、生活などの観点から歴史的事象を取り上げ、歴史の展開を考察し日本社会に対する多角的で柔軟な見方を養います。具体的には、日常生活の中で接している衣食住に戦争が及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考えます。
授業計画 Syllabus	第1回 イン트로ダクション 第2回 現代を規定しているもの ～日本人の「国」意識、「伝統」の偽造～ 第3回 近代の戦争と十五年戦争 第4回 戦争とくらし（1） 戦時下のくらしとは 第5回 戦争とくらし（2） 食糧生産と食生活 第6回 戦争とくらし（3） 衣生活・娯楽の制限 第7回 戦争とくらし（4） 女性の社会活動 第8回 旧日本軍の組織・制度（1） 第9回 旧日本軍の組織・制度（2） 第10回 銃後美談・軍国美談 第11回 「日本精神」「大和魂」とは 第12回 戦時下の平等不平等 第13回 現代の軍隊（1） 第14回 現代の軍隊（2） 第15回 質疑応答と試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	講義中に行う数回の試験（40%）と第15回に行う試験（60%）により評価。
履修上の注意 Requirements and policy	日本人の国民性や戦時下のくらし、女性のあり方などに関心があること。日常生活からも歴史がとらえられることに気づき、受講する目的意識が持てる上での受講が望ましい。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	石原 のり子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>私家集に見える恋</p> <p>私家集とは、ある歌人一人の和歌を集めた和歌集のことである。平安時代以降、おびたしい数の私家集が編まれたが、今回の授業では特に女性の私家集を取り上げ、平安時代の女性の恋の喜び・哀しみ・苦悩を見つめる。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第一回：ガイダンス</p> <p>第二回：『小町集』</p> <p>第三回：『伊勢集』①</p> <p>第四回：『伊勢集』②</p> <p>第五回：『道綱母集』①</p> <p>第六回：『道綱母集』②</p> <p>第七回：『和泉式部集』①</p> <p>第八回：『和泉式部集』②</p> <p>第九回：『和泉式部集』③</p> <p>第十回：『和泉式部集』④</p> <p>第十一回：『建礼門院右京大夫集』①</p> <p>第十二回：『建礼門院右京大夫集』②</p> <p>第十三回：『建礼門院右京大夫集』③</p> <p>第十四回：『建礼門院右京大夫集』④</p> <p>第十五回：まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	平常点（感想カード）30%、期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	感想カードにより出席状況を把握するとともに平常点の評価も行う。 詳しくは初回の授業で説明する。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	試験には、授業中に配布したプリントのみ持ち込みを許可する。

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	日本の文学						
担当教員	木下 美佳						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	古来の日本において、歌は男女の間に欠かせないものであり、日本の文学も和歌から散文へと発達した。最初の勅撰和歌集『古今集』から、和歌に詠まれた恋の楽しみ、悲しみの表現を味わうとともに、和歌解釈の基礎知識を整理する。また、古典文学の代表作品『伊勢物語』『源氏物語』を取り上げ、和歌から散文への発達に伴い、物語に見られる表現と物語中に詠まれた和歌表現がどのように関わるのかを見ていく。
授業計画 Syllabus	第1回 ガイダンス 第2回 『古今集』① 第3回 『古今集』② 第4回 『古今集』③ 第5回 『伊勢物語』① 第6回 『伊勢物語』② 第7回 『伊勢物語』③ 第8回 映像に見る平安文学 第9回 『源氏物語』① 第10回 『源氏物語』② 第11回 『源氏物語』③ 第12回 『源氏物語』④ 第15回 まとめと試験
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	平常点（感想カードによる）30%、期末試験70%
履修上の注意 Requirements and policy	感想カードにより出席状況を把握するとともに平常点の評価も行う。 詳しくは初回の授業で説明する。
教科書 Textbook(s)	授業中にプリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	試験には、授業中に配布したプリントのみ持ち込みを許可する。

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	人間関係論						
担当教員	中里 直樹						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>【目的・概要】</p> <p>この授業の目的は、前期授業「社会心理学」に引き続き、社会心理学の基礎について学ぶことです。社会心理学は、身近な他者や所属している集団、社会的環境が私たちの心の動きにどのように影響を与えるかを考える心理学の一分野です。この授業では、社会心理学の研究領域の中から、コミュニケーション、親密な対人関係、集団の中での個人の心理といった対人レベルと集団レベルについて講義します。この授業を受講することで、社会心理学の対人レベルと集団レベルの基礎知識を得ることができます。また、理論的なことのみならず、みなさん自身の人間関係について考える機会を提供できればと思います。</p> <p>【テーマとキーワード】</p> <p>社会心理学の対人レベル・集団レベル、コミュニケーション、説得、親密な対人関係、集団と個人</p>
授業計画 Syllabus	<p>【第1回】 人間関係論イントロダクション</p> <p>【第2回】 対人的コミュニケーション(1)：言語的・非言語的コミュニケーション</p> <p>【第3回】 対人的コミュニケーション(2)：顔面表情</p> <p>【第4回】 説得的コミュニケーション(1)：説得する側の特徴</p> <p>【第5回】 説得的コミュニケーション(2)：説得方法</p> <p>【第6回】 説得的コミュニケーション(3)：説得を受ける側の特徴</p> <p>【第7回】 親密な対人関係(1)：対人関係の始まり</p> <p>【第8回】 親密な対人関係(2)：対人関係の発展と持続</p> <p>【第9回】 親密な対人関係(3)：対人関係の危機</p> <p>【第10回】 親密な対人関係(4)：対人関係の終焉</p> <p>【第11回】 援助行動</p> <p>【第12回】 集団と個人(1)：集団の特徴と機能</p> <p>【第13回】 集団と個人(2)：リーダーシップ、集団間葛藤</p> <p>【第14回】 後期授業の振り返り</p> <p>【第15回】 後期試験と全体のまとめ</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で授業をおこないます。数回に1度、授業中に課題(感想文形式)に取り組んでもらい、提出を求めることがあります。
評価方法 Evaluation	期末試験(50%)、出席状況(30%)、提出課題(20%)で総合的に評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 履修の対象者</p> <p>心理学や対人関係に興味を持っている人に受講してもらいたいです。前期授業「社会心理学」とあわせて履修することが望ましいです。</p> <p>(2) 授業外における学習</p> <p>毎授業ごとに配布資料と教科書を用いて、復習してください。そうすることが、テスト対策になります。</p> <p>(3) その他</p> <p>座席指定とします。</p>
教科書 Textbook(s)	『社会心理学(初版)』(藤原武弘 編著、晃洋書房、2009年、ISBN978-4-7710-2010-8)
参考書 Reference(s)	授業の内容をまとめたプリントを配布します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	表象文化論II（都市情報論）						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：都市の読み方・歩き方-メディアとしての街</p> <p>授業内容： 現代のさまざまな情報文化は、都市という場で私たちの生活と関わりあいながら、都市の生活文化となってゆく。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に日々の生活の一部でもある。 そのような情報と生活の接する場としての都市に生成し、さまざまなスポットを通して発信される「都市文化」の諸相を、タウン情報誌など各種雑誌メディアにあらわれた情報によって読み解きながら、メディアとしての街について考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 都市と情報文化/情報誌的世界のなりたち</p> <p>(3) 考現学入門</p> <p>(4) 映画と都市1/映画街と名画座</p> <p>(5) 映画と都市2/シネコンとミニシアター</p> <p>(6) 音楽と都市 ホール/ライブハウス</p> <p>(7) 演劇と都市 劇場/寄席</p> <p>(8) 美術と都市 美術館/画廊</p> <p>(9) 文学と都市 図書館/書店/文学館</p> <p>(11) 消費と都市1/飲食店</p> <p>(12) 消費と都市2/百貨店と商店街</p> <p>(10) 街並みと都市 街路/建築</p> <p>(13) 交通と都市 沿線文化/遊園地</p> <p>(14) メディアとしての街</p> <p>(15) まとめ</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末レポート（70%）、提出物および平常点等（30%）
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話、授業中の入退室など、他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>西洋絵画には、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、アクリル画などさまざまな表現手法がある。それらの作品を鑑賞し、そこに「何が」「どのように」描かれ、「なぜ」描かれたのかなどを考察することで、美術作品を理解し、関心を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、主として西洋絵画をとりあげる。それら作品の技法・表現を知ることや、日本美術の表現と比較・照合することで、西洋絵画の特徴を考えることにする。また画家の制作過程では、どのようなことが行われているのかを映画・映像資料を観たり、素描の意味を考えることで探る。</p> <p>多様なアプローチによる作品鑑賞を試み、自分自身の感想を述べる力を身につけたい。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 絵画のいろいろ (1) 油彩画</li> <li>3. 絵画のいろいろ (2) アクリル画</li> <li>4. 遠近法 (1) 西洋絵画の遠近法と日本絵画の遠近法</li> <li>5. 遠近法 (2) 変貌する遠近法</li> <li>6. 絵画のいろいろ (3) フレスコ画</li> <li>7. 絵画のいろいろ (4) テンペラ画</li> <li>8. 宗教画と図像</li> <li>9. 映画・映像で観る作家の制作活動 (1) 導入と鑑賞</li> <li>10. 映画・映像で観る作家の制作活動 (2) 鑑賞とまとめ</li> <li>11. 素描 (1) 基礎訓練・学習としての素描</li> <li>12. 素描 (2) 習作と本画</li> <li>13. 素描 (3) 記録・構想としての素描</li> <li>14. 模写による実体験を介した作品鑑賞</li> <li>15. 「わたし」の作品鑑賞</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%。
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を評価の対象とする。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業内で紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術B						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>日本美術には、空間と大きく関係する障壁画、特殊な形態をもつ絵巻物、版を使用することで複製可能な浮世絵などの伝統がある。これらを中心に版画や彫塑等の作品を鑑賞し、美術の造形表現が時代や社会の変化につれてどのように変貌してきたのかを理解する。また日常生活の中で美術と親しみ、芸術作品を楽しむ意識が持てるようになることを目的としている。</p> <p>この授業では、主に日本の美術を中心に版画、彫塑、多様化する現代美術の表現をとりあげる。日本の絵巻物や障壁画の鑑賞では、日本絵画の画材、技法、表現を知り、西洋美術の表現と比較・照合することで、その特徴をみる。また版画作品の鑑賞では、西洋の作品を含め版種の特徴、複製性、浮世絵が西洋に与えた影響などを探る。そして彫塑作品の鑑賞では、素材、技法の特徴や公共の中での作品について考察する。多様な美術のありかたを考え、美術の多義性を知る。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 日本の美術：日本画の技法と特徴</li> <li>3. 時間の表現：日本と西洋</li> <li>4. 空間の表現：日本と西洋</li> <li>5. 版画の表現（1）版画の特性</li> <li>6. 版画の表現（2）凸版・凹版</li> <li>7. 版画の表現（3）孔版・平版・CG</li> <li>8. 浮世絵と西洋絵画</li> <li>9. 彫塑の表現（1）塑像</li> <li>10. 彫塑の表現（2）木彫・石彫</li> <li>11. 一人の作家が制作した絵画と彫刻</li> <li>12. 彫塑の表現（3）金属彫刻・立体構成</li> <li>13. 街中での彫塑</li> <li>14. 多様化する表現：インスタレーション他</li> <li>15. 「わたし」の作品鑑賞</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%。
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を評価の対象とする。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業内で紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史A						
担当教員	上久保 真理						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	一つ一つの美術作品をじっくりと鑑賞し、深く掘り下げてみることで、その作品の背景となった時代や文化の特徴、作者の抱いていた思想や思惑などが浮かび上がってくる。美術の歴史をたどりながら作品を読み解き、作品の向こうに広がる世界に触れてみよう。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：導入 授業についての注意 この授業で何をめざすか 授業計画、その他</p> <p>第2回：キリスト教以前</p> <p>第3回：聖なるもの</p> <p>第4回：教会と美術</p> <p>第5回：古代への憧憬</p> <p>第6回：自然研究の成果</p> <p>第7回：仮想の空間</p> <p>第8回：緻密な眼</p> <p>第9回：宗教改革と美術</p> <p>第10回：リアリティーを求めて</p> <p>第11回：市民階級と美術</p> <p>第12回：戯れと美術</p> <p>第13回：革命と美術</p> <p>第14回：ロマン主義者たち</p> <p>第15回：まとめと展望</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形態。 スライド、DVDの使用。 個人もしくはグループ単位での発表もあり。
評価方法 Evaluation	平常点（毎回の小レポートを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。希望があれば費用各自負担・自由参加で休日等に学外見学することもあり。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。

参考書 Reference(s)	随時授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術史B						
担当教員	上久保 真理						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	19世紀以降、人間社会は工業化の一途をたどってきた。今日、様々なテクノロジーが生まれ、わたしたちはめまぐるしい変化の渦の中にある。日々多様化する選択肢の中からわたしたちの行き先を選ばなければならない。美術作品もろしく。美術作品の変化はわたしたちの感性や価値観の変化を反映する。わたしたちの目線で、近代から現在までの美術の変容を読み解こう。
授業計画 Syllabus	<p>第1回：導入 授業についての注意 この授業で何をめざすか 授業計画、その他</p> <p>第2回：写真誕生</p> <p>第3回：「印象」主義</p> <p>第4回：見えないものを描く</p> <p>第5回：美しい生活</p> <p>第6回：「存在」する絵画</p> <p>第7回：戦争と美術</p> <p>第8回：レディ・メイド</p> <p>第9回：夢と現実</p> <p>第10回：新しいデザイン</p> <p>第11回：抽象化という試み</p> <p>第12回：大衆と人気</p> <p>第13回：集積する「物」</p> <p>第14回：多様化する美術</p> <p>第15回：まとめと展望</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義形態。 スライド、DVDの使用。 個人もしくはグループ単位での発表もあり。
評価方法 Evaluation	平常点（毎回の小レポートを含む）30%、宿題レポートなどの提出物や発表20%、期末レポート50%の総合による。
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話、授業中の出入りは慎むこと。教室では固定席（学生番号順）とする。希望があれば費用各自負担・自由参加で休日等に学外見学することもあり。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。

参考書 Reference(s)	随時授業中に紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術実技A／美術A						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	1.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>作品を実際に制作することで、創ることの意味を考え、表現することの楽しみを体験し、美術の理解を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、美術表現の骨格である素描の制作をする。</p> <p>事物のあるがままの姿をとらえ、それを平面上に表現するためには、どのような工夫が必要であるか。またそのためにはどのような描画材料が適当であるか。</p> <p>素描の多様性を知ると同時に、対象のとらえ方、「みる」ことの多義性を知る。</p>						
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 画材を知る：鉛筆でのウォミングアップ</li> <li>3. 模写：名画に学ぶ</li> <li>4. 描法1：ハッチング</li> <li>5. 観察と表現（1）形とスケール</li> <li>6. 観察と表現（2）面をとらえる</li> <li>7. 観察と表現（3）明暗とタッチ</li> <li>8. 構図と遠近法</li> <li>9. 描法2：ぼかし</li> <li>10. 植物（1）線とリズム</li> <li>11. 植物（2）淡彩</li> <li>12. 画材と描法</li> <li>13. クロッキー</li> <li>14. デフォルメ</li> <li>15. 「わたし」の表現</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	演習						
評価方法 Evaluation	出席状況を含む平常点30%、課題作品70%との総合評価。						
履修上の注意 Requirements and policy	毎授業終了の際に説明する、次回授業に必要な用具を必ず準備すること。 10回以上の出席を評価の対象とする。						
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)							
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術実技B／美術B						
担当教員	宮地 佳代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	1.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀以降の絵画の歴史に重要な足跡を残した画家たちが、どのような考えを基にそれらの作品を生みだし、どのように表現したのかを知り、実際に制作することで、現代美術をよりよく理解することを目的としている。 この授業では、主にキュビズム、未来派、シュプレマティスム、新造形主義、シュルレアリスムなどを取りあげる。時代と共に宣言される主張の変化、それと共に変貌する対象のとらえ方、具体的な形態から抽象的な形態へと変わる過程、それらを時代の変化を追いながら制作し体験することで理解する。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 多視点でとらえる (1) 構想と描画</li> <li>3. 多視点でとらえる (2) 着彩とカラーージュ</li> <li>4. 時間と運動 (1) 構想と描画</li> <li>5. 時間と運動 (2) 着彩</li> <li>6. 点・線・面 (1) 対象を「点」「線」「面」でとらえる</li> <li>7. 点・線・面 (2) 「点」の構成、「線」の構成</li> <li>8. 点・線・面 (3) 名前をもたない形</li> <li>9. オートマティスム (1) 技法演習</li> <li>10. オートマティスム (2) 応用と作品化</li> <li>11. 写真からの表現 (1) グラビアからの表現</li> <li>12. 写真からの表現 (2) フォトモンターージュと描画</li> <li>13. 「わたし」の表現 (1) 支持体と下地</li> <li>14. 「わたし」の表現 (2) 画材と描法</li> <li>15. 「わたし」の表現 (3) 描画と着彩</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	演習
評価方法 Evaluation	出席状況を含む平常点30%、課題作品70%との総合評価。
履修上の注意 Requirements and policy	毎授業終了の際に説明する、次回授業で必要な用具を必ず準備すること。 10回以上の出席を評価の対象とする。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	美術入門						
担当教員	宮地 佳代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>美術には、どのような表現方法、形態、機能があるのか。そこにはどんな特徴があるのか。多様な美術作品に触れることによって視野を拡げ、美術への理解、関心を深めることを目的としている。</p> <p>この授業では、フレスコ画、テンペラ画、油彩画、日本画、版画、彫塑、素描作品を取りあげる。それらの技法の特徴を知り、個々の作品の背後にあるものを探り、また西洋と日本の表現を比較・照合することでのその表現の差異を考察する。</p> <p>作品には「何が」「どのように」表現され、「なぜ」その作品が創られたのか、様々なアプローチによる作品鑑賞を試み、美術の多様性、多義性を知ると同時に自分自身の感想を述べる力を身につけたい。</p>
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 油彩画</li> <li>3. 日本画</li> <li>4. 西洋と日本の差異（1）遠近の表現</li> <li>5. 西洋と日本の差異（2）時間の表現</li> <li>6. フレスコ画</li> <li>7. テンペラ画</li> <li>8. 版画（1）凸版・凹版</li> <li>9. 版画（2）孔版・平版・CG</li> <li>10. 彫塑（1）塑像・木彫</li> <li>11. 彫塑（2）石彫・金属彫刻・立体構成</li> <li>12. 素描</li> <li>13. 模写による実体験を介した作品鑑賞</li> <li>14. 多様化する表現</li> <li>15. 「わたし」の作品鑑賞</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	出席状況を含む平常点30%、課題レポート30%、期末レポート40%。
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を評価の対象とする。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	授業内で紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	フランス文学I／世界の文学IVA（フランス文学）						
担当教員	木谷 吉克						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	<p>サン＝テグジュペリ研究 作家であると同時に職業パイロットでもあったサン＝テグジュペリの作品のいくつかを精読していく。とりあげる作品は、『夜間飛行』『人間の大地』『小さな王子さま』（『星の王子さま』）である。夜間飛行の推進に生きる「行動の生活」と、愛情や家庭といった「個人的幸福の生活」のあいだの葛藤と、それぞれの生活の意義を追究した『夜間飛行』を精読したあと、『人間の大地』のなかの「絆と責任」のテーマに関係するエピソードを抜粋して読んでいく。そのあとで『小さな王子さま』を精読する。この作品もまた「絆と責任」が主要なテーマである。これら3作品をとおして、サン＝テグジュペリが人間というものを、また生きるということ、どのようにとらえていたのか、人間の絆や、絆にともなう責任について、どのように考えていたのかを明らかにしていきたい。</p> <p>授業は演習形式で進める。あらかじめ質問集を配布する。受講者は各問いにたいする答えを考えておかなければならない。授業時にその答えを発表していただく。毎回のように発言を求められるので、積極的に授業に参加しようという気構えがなければ、途中で脱落する公算が大である。</p>						
授業計画 Syllabus	<p>第1回：授業の進め方の説明。サン＝テグジュペリと、その作品についての概説。</p> <p>第2回：サン＝テグジュペリの処女作である『南方郵便機』についての概説と、『南方郵便機』までのサン＝テグジュペリの伝記的事実の概説。</p> <p>第3回～第5回：『夜間飛行』までのサン＝テグジュペリの伝記的事実の概説後、『夜間飛行』を読んでいく。あらかじめお渡しする「質問集」の問いにたいする答えを考えておく必要がある。各問いにたいする答えを発表していただきながら授業を進めていく。</p> <p>第6回～第8回：『夜間飛行』の後半部分では、「質問集」はあらかじめ用意していない。受講生とともに質問集を作っていくことになる。受講生は課された箇所について、最低一つは自分で質問を考えてこなければならぬ。受講生の作った質問を取捨選択し、さらに必要と思われる質問を加えて、『夜間飛行』後半部の「質問集」を作成し、お渡しする。その質問集に沿って、前半部と同じ仕方で授業を進めていく。</p> <p>第9回～第11回：『人間の大地』までのサン＝テグジュペリの伝記的事実を概説したあと、『人間の大地』をとりあげる。『人間の大地』の一部をコピーしてお渡しする。これについても、第6回～第8回と同じ仕方で授業を進めていく。</p> <p>第12回～第15回：『人間の大地』以降のサン＝テグジュペリの伝記的事実を概説したあと、『小さな王子さま』をとりあげる。引き続き同じ仕方で授業を進めていく。</p>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	第2回までは講義、第3回以降は演習						
評価方法 Evaluation	レポートと平常点による。						

履修上の注意 Requirements and policy	質問集の問いに対する答えを用意せずに出席することを禁ずる。欠席 5回で失格とする。
教科書 Textbook(s)	サン＝テグジュペリ・コレクション2 「夜間飛行」サン＝テグジュ ペリ著、山崎庸一郎訳(みすず書房) 「小さな王子さま」 サン＝テグジュペリ著、山崎庸一郎訳(みすず書 房)
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学／文化人類学I						
担当教員	吉岡 政徳						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>概要：文化人類学は、それぞれの文化は独自の論理を持っておりそれらは相互に優劣関係にはないとする文化相対主義という視点に立脚している。本講義ではこの視点から、わけがわからず「奇妙」で「原始的」だと片付けられてきた儀礼、呪術、宗教運動、神話などをとらえなおし、それぞれが持つ独自の論理を考える。なお、宗教運動は植民地化の過程でも頻繁に生じており、それとの関連で、植民地化や独立運動についての文化人類学的議論を紹介する。</p> <p>目的：文化相対主義とはどういうものを理解すること。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 進化主義と文化相対主義</p> <p>第2回 儀礼と呪術</p> <p>第3回 儀礼の論理</p> <p>第4回 反体制的な社会宗教運動</p> <p>第5回 千年王国運動と土着主義運動</p> <p>第6回 奇妙な宗教運動・カーゴカルト</p> <p>第7回 植民地化</p> <p>第8回 独立をめぐる</p> <p>第9回 質疑応答と中間のレポート試験</p> <p>第10回 未開人の思考とヨーロッパ人の思考</p> <p>第11回 原始宗教と科学</p> <p>第12回 新たな知の発見</p> <p>第13回 レヴィ=ストロースの「野生の思考」</p> <p>第14回 神話の解読</p> <p>第15回 試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	「持ち込み不可」の期末試験80%、「持ち込み可」の中間のレポート試験（きめられた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）20%
履修上の注意 Requirements and policy	出席はとらない。授業中の中途入室は許可するが、中途退出は、特段の理由がない限り許可しない。
教科書 Textbook(s)	特に用いない。
参考書 Reference(s)	授業の中で適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文化人類学入門						
担当教員	吉岡 政徳						
学期	前期 / 1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>概要：我々は、無意識のうちに自分の文化的価値観を通して異文化を見てしまう。これを自文化中心主義と呼ぶが、文化人類学的な思考は、この自文化中心主義を批判することから始まる。文化人類学の入門編である本講義では、フィールドワークを踏まえた具体的な異文化の事例を提示するが、それらの解説を通して、文化人類学的な思考とはどのようなものなのかを説明していく。</p> <p>目的：自分たちの考え方が、いかに自文化中心主義的にできているかということに気づくようになること。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 自文化中心主義</p> <p>第2回 フィールドワークと異文化体験</p> <p>第3回 テレビにおける異文化表象の嘘</p> <p>第4回 常識を疑う</p> <p>第5回 飢えのない貧困：異文化における暮らし</p> <p>第6回 いびつな母系家族Ⅰ：父系と母系</p> <p>第7回 いびつな母系家族Ⅱ：私の妻の母は私の娘</p> <p>第8回 質疑応答と中間のレポート試験</p> <p>第9回 独自の政治的リーダーⅠ：策を弄するビッグマン</p> <p>第10回 独自の政治的リーダーⅡ：階層の頂点にたつ首長</p> <p>第11回 日常の人類学Ⅰ：タブーの話</p> <p>第12回 日常の人類学Ⅱ：儀式、儀礼の話</p> <p>第13回 開発と自文化中心主義</p> <p>第14回 マスメディアの報道と現実のズレ：地球温暖化の犠牲者ツバルの真実</p> <p>第15回 試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	「持ち込み不可」の期末試験80%、「持ち込み可」の中間のレポート試験（きめられた時間で一斉にミニ・レポートを作成する試験）20%
履修上の注意 Requirements and policy	授業途中の中途入室は許可するが、中途退出は特段配慮できる理由以外は認めない。
教科書 Textbook(s)	特に用いない。
参考書 Reference(s)	授業中に適宜紹介する。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文学A						
担当教員	武田 良材						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	文学作品を解釈するとき、私たちは数多くの常識を適用して評価を下すのだが、いかなる常識を適用しているのかについて自覚的であることは難しい。この授業では当たり前の判断を疑問に付し、慎重かつ入念な読書の仕方を学ぶ。抽象的で哲学的な話が多くなるが、適宜、文学作品を例示する。						
授業計画 Syllabus	<p>文学理論のキーワード「文学、作者、世界、読者、文体、歴史、価値」をテーマに授業を進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学1</li> <li>2. 文学2</li> <li>3. 作者1</li> <li>4. 作者2</li> <li>5. 世界1</li> <li>6. 世界2</li> <li>7. 読者1</li> <li>8. 読者2</li> <li>9. 文体1</li> <li>10. 文体2</li> <li>11. 歴史1</li> <li>12. 歴史2</li> <li>13. 価値1</li> <li>14. 価値2</li> <li>15. 補足と試験</li> </ol>						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義						
評価方法 Evaluation	感想・意見（7回程度）60%、試験40% 各テーマごとに授業の終わりに、何を感じ、何を考えたかを短く書いてもらう。						
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を必須とする。 単に出席するだけでなく、考えながら聞いて感想・意見を述べなければ合格点は取れない。 私語厳禁。						
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。						
参考書 Reference(s)	アントワヌ コンパニオン著『文学をめぐる理論と常識』岩波書店						
備考 Remarks							

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	文学B						
担当教員	武田 良材						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	読書する者だけが書き手に成長する。だから必然的に読書という行為をテーマとする文学作品は多い。この授業では読書を扱った名作文学を知る。
授業計画 Syllabus	<p>順番は前後する場合がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入</li> <li>2. ダンテ『神曲』</li> <li>3. セルバンテス『ドン・キホーテ』</li> <li>4. 読者キホーテの物語から『ドン・キホーテ』の読者の物語へ</li> <li>5. ゲーテ『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』</li> <li>6. マイスター諦念と秘密結社</li> <li>7. フローベール『ボヴァリー夫人』</li> <li>8. カフカ『判決』</li> <li>9. エンデ『はてしない物語』</li> <li>10. エーコ『薔薇の名前』</li> <li>11. 読まざる物語を解説する</li> <li>12. シュリンク『朗読者』</li> <li>13. 北杜夫『幽霊』</li> <li>14. 続編『木霊』</li> <li>15. 補足と試験</li> </ol>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	感想・意見（9回程度）60%、試験40% 各テーマごとに授業の終わりに、何を感じ、何を考えたかを短く書いてもらう。
履修上の注意 Requirements and policy	10回以上の出席を必須とする。 単に出席するだけでなく、考えながら聞いて感想・意見を述べなければ合格点は取れない。 私語厳禁。
教科書 Textbook(s)	プリントを配布する。
参考書 Reference(s)	トーマス・C. フォスター 『大学教授のように小説を読む方法』 白水社
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田 洋子・林 裕子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>ホスピタリティの探求。ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげる。</p> <p>現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。特に観光や旅行、買い物などホスピタリティが重視される場面や産業は幅広い。この授業では、エアラインのサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティとはどのようなものであるか、それを生み出すには何が求められているかについて広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション : 授業履修にあたっての説明 概要説明</p> <p>第2回 ホスピタリティとは : ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの関係</p> <p>第3回 ホスピタリティと人間 : 相手を思いやる気持ちはどこからくるのか 人の感情</p> <p>第4回 ホスピタリティと文化 : ホスピタリティの表現について 時代・文化の背景</p> <p>第5回 ホスピタリティと産業 : ホスピタリティ産業</p> <p>第6回 ホスピタリティとコミュニケーションⅠ : ホスピタリティとコミュニケーションの関係 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション</p> <p>第7回 ホスピタリティとコミュニケーションⅡ : ホスピタリティを発揮する為に必要なこととは 挨拶、敬語、基本マナーについて</p> <p>第8回 ホスピタリティのコミュニケーションⅢ : コミュニケーション能力を向上させる演習 スマイルスキャンを使用した笑顔練習等</p> <p>第9回 ホスピタリティの評価 : 身近なホスピタリティ産業を評価し発表する</p> <p>第10回 ホスピタリティ・マネジメントⅠ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第11回 ホスピタリティ・マネジメントⅡ : ホスピタリティを発揮する為の全体のマネジメントを考える</p> <p>第12回 事例研究 : ANAのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第13回 事例研究 : 東京ディズニーリゾートのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第14回 事例研究 : ホテルリッツカールトンのホスピタリティ・マネジメントとは</p> <p>第15回 まとめと試験</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	パワーポイントを使って講義形式で行う。
評価方法 Evaluation	テスト（50%）と課題提出、授業態度等を含む平常点（50%）で総合的に判断する。
履修上の注意 Requirements and policy	<p>(1) 毎回授業中に簡単なレポートを作成する。ホスピタリティやサービスについての自分なりの考え方等を問うものである。授業で取り上げる各テーマについて受講生自身が考え、実践・応用することを期待する。</p> <p>(2) 毎週の課題として「ホスピタリティを感じた事例」を記入し提出する。受講生がホスピタリティを創造できるようになることを目指す。</p> <p>(3) ホスピタリティをテーマに行うことから常に他者のことを考えて行動すること。</p>
教科書 Textbook(s)	テキストは使用しない。適宜資料を配布する。
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。</p> <p>言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>会社が作成した報告書の仕組みを勉強しつつ、どのように儲けていくのかの仕組みについて考え、その記録の仕方の基本を勉強します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 簿記の世界へようこそ！</p> <p>第3回 勘定科目のしくみ、仕訳のしくみ</p> <p>第4回 仕訳のしくみ</p> <p>第5回 記帳のしくみ、決算のしくみ</p> <p>第6回 現金、当座預金</p> <p>第7回 小口現金</p> <p>第8回 商品売買（仕入）</p> <p>第9回 商品売買（売上）</p> <p>第10回 商品有高帳</p> <p>第11回 手形</p> <p>第12回 手形のてん末と手形記入帳</p> <p>第13回 有価証券</p> <p>第14回 固定資産</p> <p>第15回 前期試験</p> <p>授業内容は、皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説をしていきます。</p> <p>適宜補充プリントを配布することで、簿記に慣れてもらうことを行います。</p>
評価方法 Evaluation	全体の平均点にもよりますが、概ね、試験と平常点の比率は50：50で評価します
履修上の注意 Requirements and policy	簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと
教科書 Textbook(s)	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。</p> <p>日商3級精選問題集 著 浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。</p> <p>言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。</p> <p>会社が作成した報告書の仕組みを勉強しつつ、どのように儲けていくのかの仕組みについて考え、その記録の仕方の基本を勉強します。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 簿記の世界へようこそ！</p> <p>第3回 勘定科目のしくみ、仕訳のしくみ</p> <p>第4回 仕訳のしくみ</p> <p>第5回 記帳のしくみ、決算のしくみ</p> <p>第6回 現金、当座預金</p> <p>第7回 小口現金</p> <p>第8回 商品売買（仕入）</p> <p>第9回 商品売買（売上）</p> <p>第10回 商品有高帳</p> <p>第11回 手形</p> <p>第12回 手形のてん末と手形記入帳</p> <p>第13回 有価証券</p> <p>第14回 固定資産</p> <p>第15回 前期試験</p> <p>授業内容は、皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説をしていきます。</p> <p>適宜補充プリントを配布することで、簿記に慣れてもらうことを行います。</p>
評価方法 Evaluation	全体の平均点にもよりますが、概ね、試験と平常点の比率は50：50で評価します
履修上の注意 Requirements and policy	簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと
教科書 Textbook(s)	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。</p> <p>日商3級精選問題集 著 浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう          社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。          言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。          簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。          この授業では、簿記に慣れしただけで終わらせないために、できるだけやさしい言葉で解説します。          本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 その他債権債務          第2回 資本金、税金、貸倒          第3回 帳簿組織/伝票会計          第4回 試算表のしくみ          第5回 決算とは（流れ）          第6回 決算修正作業          第7回 決算整理作業          第8回 決算整理作業          第9回 精算表の作成          第10回 精算表の作成練習          第11回 帳簿の締切          第12回 報告書の作成          第13回 報告書作成演習          第14回 後期試験          第15回 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。          最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、平常点を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。          また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。          日商3級精選問題集 著          浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島 進						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>会社の儲ける仕組みをのぞいてみよう          社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。          言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。          簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。          この授業では、簿記に慣れしただけで終わらせないために、できるだけやさしい言葉で解説します。          本講座を通じて簿記の基礎知識を得るとともに、参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。</p>
授業計画 Syllabus	<p>第1回 その他債権債務          第2回 資本金、税金、貸倒          第3回 帳簿組織/伝票会計          第4回 試算表のしくみ          第5回 決算とは（流れ）          第6回 決算修正作業          第7回 決算整理作業          第8回 決算整理作業          第9回 精算表の作成          第10回 精算表の作成練習          第11回 帳簿の締切          第12回 報告書の作成          第13回 報告書作成演習          第14回 後期試験          第15回 後期総まとめ</p> <p>皆さんの理解度によって多少前後します。</p>
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	<p>教科書を中心に解説していきます。          最終的には、日商簿記3級試験の合格レベルまで説明します。</p>
評価方法 Evaluation	<p>定期試験に、講義中の行う小テスト、平常点を加味する。</p>
履修上の注意 Requirements and policy	<p>簿記は積み重ねですのでできるかぎり欠席しないこと。          また、簿記・会計Aの履修後の履修が望ましい。</p>
教科書 Textbook(s)	<p>知る・わかる・わかる はじめての簿記入門（セルバ出版）</p>
参考書 Reference(s)	<p>より理解を深めたい方は購入して練習してください。          日商3級精選問題集 著          浜田勝義（かんき出版）</p>
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 幸						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 歴史とボランティア</li> <li>3. 阪神淡路大震災とボランティア</li> <li>4. まちづくりとボランティア</li> <li>5. 障害者福祉とボランティア</li> <li>6. NPOとボランティア</li> <li>7. 介護保険とボランティア</li> <li>8. 認知症とボランティア</li> <li>9. 宅老所とボランティア</li> <li>10. 高齢者とボランティア</li> <li>11. パーソンセンタードケアとボランティア</li> <li>12. ノーマライゼーションとボランティア</li> <li>13. マネジメントとボランティア</li> <li>14. 国際社会とボランティア</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式による
評価方法 Evaluation	<p>期末レポート：80%</p> <p>講義中の課題・小テスト：20%</p>
履修上の注意 Requirements and policy	講義への積極的な参加を期待します
教科書 Textbook(s)	講義中に指示
参考書 Reference(s)	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	ボランティア論						
担当教員	山口 幸						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	今日、ボランティアはわたしたちの社会にとって欠かせない存在となった。本講義では、ボランティアの歴史や現状、そして現場における実践の紹介を通じて、ボランティアの本質に迫ることを目的とする。
授業計画 Syllabus	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 歴史とボランティア</li> <li>3. 阪神淡路大震災とボランティア</li> <li>4. まちづくりとボランティア</li> <li>5. 障害者福祉とボランティア</li> <li>6. NPOとボランティア</li> <li>7. 介護保険とボランティア</li> <li>8. 認知症とボランティア</li> <li>9. 宅老所とボランティア</li> <li>10. 高齢者とボランティア</li> <li>11. パーソンセンタードケアとボランティア</li> <li>12. ノーマライゼーションとボランティア</li> <li>13. マネジメントとボランティア</li> <li>14. 国際社会とボランティア</li> <li>15. まとめ</li> </ol>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義形式による
評価方法 Evaluation	期末レポート：80% 講義中の課題・小テスト：20%
履修上の注意 Requirements and policy	講義への積極的な参加を期待します
教科書 Textbook(s)	講義中に指示
参考書 Reference(s)	「恋するようにボランティアを [優しき挑戦者たち]」 (大熊由紀子・2008年・ぶどう社)
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	マス・コミュニケーション論A／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何ができるか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	マス・コミュニケーション論A／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何ができるか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	マス・コミュニケーション論A／メディア論A						
担当教員	佐藤 誠						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1～4	単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	20世紀は戦争の世紀でした。また19世紀から続くメディアの世紀でもありました。そして現代は、新聞・雑誌・ラジオ・テレビそしてインターネット・ケータイとさまざまなメディアが重層的に取り入れられています。いまや、メディア・コミュニケーションなしに人間も社会も存在しえません。その中で私たちはどのようにしてメディアとコミュニケーションすればいいのでしょうか？さまざまな問題を受講者とともに「参加型授業」として探求します。
授業計画 Syllabus	①メディアの変遷 ②メディアの今日的課題～レポートの課題提示～ ③メディアとしての身体からグーテンベルクへ ④マスコミュニケーションの成立と発展 ⑤「インターネットとケータイはどのように人間や社会を変えるか？」議論 ⑥放送メディアの生成と発展 ⑦メディアの今日的生成 ⑧「マスコミの過熱報道について」議論 ⑨国家とメディア ⑩メディア産業と組織 ⑪「インターネットで世界中の子供たちのために何ができるか？」議論 ⑫ネットワークと階層 ⑬マスコミュニケーションと社会 ⑭メディアの利用と効果 ⑮テスト
参照URL Reference URL(s)	
授業方法 Class type	今回は講義のほか、受講生全員によるレポートの提出とそれによる議論、つまり「対話型授業」を取り入れたのが特徴です。ともにメディアに関して考え、議論して行きます。そのほか、さまざまなDVDやデータを見ながら検討を加えます。
評価方法 Evaluation	レポートの評価と積極的に議論に参加する受講生に高い評価を与えます。当然、出席回数が多い生徒が有利になります。期末にテストをしてその評価に加えます。比率は、出席・レポート・発表30%、試験70%です。
履修上の注意 Requirements and policy	私語・ケータイは退席してもらいます。
教科書 Textbook(s)	竹内・児島・橋本共著「メディア・コミュニケーション論Ⅰ」（北樹出版）
参考書 Reference(s)	
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	メディア論B						
担当教員	村上 知彦						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	<p>テーマ：都市の読み方・歩き方-メディアとしての街</p> <p>授業内容： 現代のさまざまな情報文化は、都市という場で私たちの生活と関わりあいながら、都市の生活文化となってゆく。映画館や美術館、書店や喫茶店、マーケットや住宅、学校や交通機関といった都市の構成要素は、情報の発信装置であると同時に日々の生活の一部でもある。 そのような情報と生活の接する場としての都市に生成し、さまざまなスポットを通して発信される「都市文化」の諸相を、タウン情報誌など各種雑誌メディアにあらわれた情報によって読み解きながら、メディアとしての街について考える。</p>
授業計画 Syllabus	<p>(1) イントロダクション</p> <p>(2) 都市と情報文化/情報誌的世界のなりたち</p> <p>(3) 考現学入門</p> <p>(4) 映画と都市1/映画街と名画座</p> <p>(5) 映画と都市2/シネコンとミニシアター</p> <p>(6) 音楽と都市 ホール/ライブハウス</p> <p>(7) 演劇と都市 劇場/寄席</p> <p>(8) 美術と都市 美術館/画廊</p> <p>(9) 文学と都市 図書館/書店/文学館</p> <p>(11) 消費と都市1/飲食店</p> <p>(12) 消費と都市2/百貨店と商店街</p> <p>(10) 街並みと都市 街路/建築</p> <p>(13) 交通と都市 沿線文化/遊園地</p> <p>(14) メディアとしての街</p> <p>(15) まとめ</p>
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義
評価方法 Evaluation	期末レポート（70%）、提出物および平常点等（30%）
履修上の注意 Requirements and policy	私語、携帯電話、授業中の入退室など、他の受講生の迷惑になる行為は慎むこと。
教科書 Textbook(s)	適宜プリントを配布します。
参考書 Reference(s)	授業中に紹介します。
備考 Remarks	

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	倫理学入門						
担当教員	堀川 敏寛						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年		単位数	2.0
授業の目的、概要 Objectives and content	倫理学とは、人間はいかに生きるべきかを考え、人間らしく生きるためにはどのような生き方を選んだら良いかを探求する学問である。今回の入門では、西洋のこれまでの代表的な倫理学説を取り上げ、それらを紹介するとともに批判的に検討し、人間の「人間らしさ」がどこに成り立つかを考えていきたい。そして、倫理学の対象と方法とに関する基礎的な理解を得る。						
授業計画 Syllabus	第1回オリエンテーション 第2回倫理とは何か、倫理学が扱う問題とは何か。 第3回倫理思想の始まり（1）ギリシア哲学（ヘレニズム） 第4回倫理思想の始まり（2）聖書の世界（ヘブライズム） 第5回臓器移植の事例による生命倫理の理解 第6回帰結主義的原理と無条件的道徳原理 第7回最大多数の最大幸福（ベンサム功利主義）少数派より多数派を優先すべきか？ 第8回自由と正義（カント道徳論）人を救うために嘘をつくことは許されるか？ 第9回義務とカントの定言命法 正義の原理は純粋な形式で決まるのか？ 第10回聖書の倫理観 貧しい人を救うことは豊かな人の義務なのか？ 第11回宗教と倫理（キルケゴール）何故西洋では倫理に宗教が必要なのか？ 第12回他者論（1）レヴィナス 人の範疇を超えた存在（無限）から倫理を考える。 第13回他者論（2）ブーバー 人と人の関係とはどうあるべきか？ 第14回他者論（3）禅仏教の倫理学 私とは何か？から倫理を考える。 第15回講義のまとめと試験対策						
参照URL Reference URL(s)							
授業方法 Class type	講義形式。ハーバード大学マイケル・サンデル教授の倫理学講義を、DVDにて参照することもある。						
評価方法 Evaluation	小テストを含む平常点 60% 期末試験 40%						
履修上の注意 Requirements and policy	講義中の私語は厳禁とする。尚、注意をしているにもかかわらず、私語を止めない学生には、単位を出さない。学期末試験のみでは不合格。出席点を兼ねた通常授業における小テストが不可欠。また授業態度の評価を兼ねて、第14回目の授業でノートを提出していただく。						
教科書 Textbook(s)	なし。プリント類を配布する。						
参考書 Reference(s)	随時、授業中に紹介する。						
備考 Remarks	意欲のある学生、全15回の授業に皆勤で出席した学生を積極的に評価する。授業中の質問に対し、発言をする学生を、積極的に評価する。						

科目区分	全学共通（一般教養系列）						
科目名	論理学A						
担当教員	木下 昌巳						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年		単位数	2.0

授業の目的、概要 Objectives and content	正しく考えるということは、論理的に考えるということにほかなりません。これはどのような事柄について考えるときにも、当てはまることです。。論理学とは、正しく考えるための論理のあり方を研究して、その法則や規則を研究する学問です。この授業では、できるだけ専門用語を使わないで、具体的な例を用いて説明しながら、講義を進めていきます。ただ教科書を読むのではなく、いっしょに練習問題を解いていくことによって、正しく論理的に考える力、誤ったごまかしの議論の偽りを見抜く力を身につけることを目指します。（昨年度開講された論理学Bとは別な内容ですので、論理学Bを履修済みの人も履修が可能です。）
授業計画 Syllabus	01 「論理学」とは何か？ 02 命題論理学とは何か 03 肯定と否定 04 「かつ」と「または」 05 「あるいは」と「または」 06 「ならば」 07 ベン図を描く 08 真理関数とは何か 09 真理表を書く① 10 真理表を書く② 11 述語論理学とは何か 12 「ある～」と「すべての～」 13 真理表を書く③ 14 真理表を書く④ 15 まとめとテスト
参照URL Referance URL(s)	
授業方法 Class type	講義・解説をしながら、学生の皆さんに練習問題を解いてもらいます。練習問題は難しいものではなく、パズルを解くような感覚で解けるものです。
評価方法 Evaluation	テスト70点、平常点30点の100点満点で評価します。
履修上の注意 Requirements and policy	ただ受け身に授業に出席するだけでなく、学生の人たちの積極的な発言を望みます。
教科書 Textbook(s)	野矢茂樹『論理学』（東京大学出版会、1994） ISBN 4130120530
参考書 Reference(s)	授業中にプリントを配布します。
備考 Remarks	